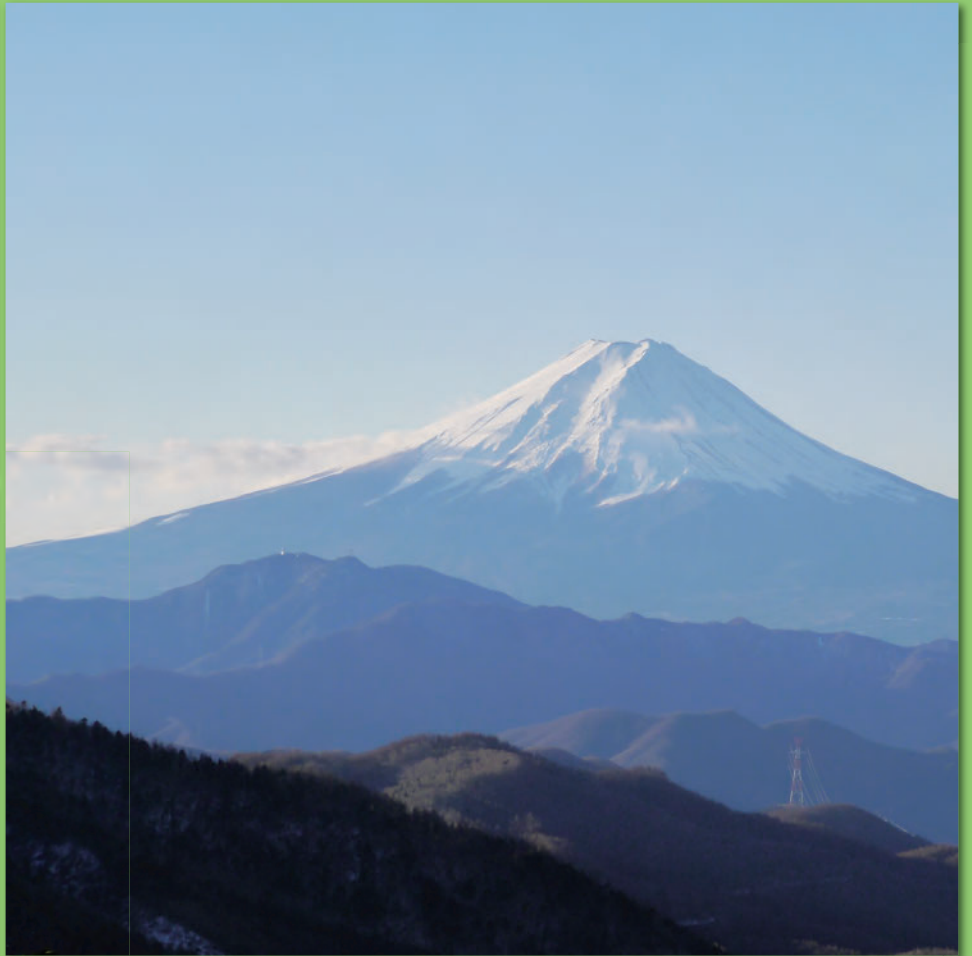


Tokyo Dental College Alumni Association



東京歯科大学同窓会会報 第390号

目 次

グラビア ふるさと自慢 会員往来 症例レポート	
巻 頭 言	1
地域理事の声	2～3
お知らせ	4～7
東京歯科大学 創立120周年記念事業	8～13
重点事業へのアプローチ	14～19
会 務	20～23
理事会のうごき	24～25
東日本大震災対策部会	26～28
母校だより	29
保 険	30～33
学 術	34～35
支部のうごき	36～54
クラス会だより	55～60
OB会・グループ・サークルだより	61
すいどうばし	62～63
庶務日誌	64
逝去会員	65
追 悼	66
投稿規定	67
へんしゅうこうき	68

ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

僕の遊び場 鳥取砂丘

鳥 取 県



大砂丘の全景 中央は筆者



冬はモノクロームの世界。北西風が砂丘を支配する。

鳥取と言えば大砂丘でしょ？鳥取に行ったことがなくとも鳥取が日本のどのあたりにあるか知らなくても大砂丘のことは知っている。それほど有名な場所です。

鳥取砂丘は鳥取市の自宅から自転車で行ける距離だったこともあり、子供の頃からよく訪れた場所だった。

大人になってからは感じなくなりましたが、子供の頃は今よりもずっと広大に感じられ、大げさに言えば砂漠のようだった。そんな場所が子供の遊び場だった。

小学校時代、春の遠足は毎年砂丘だったし、町内の子供会の運動会なども、なにかと言うと砂丘だった。特に遊ぶ施設が整っている訳でもなく、とにかく広々とした砂の丘が広がっているだけだっ

たが、飽きることなく長い時間を過ごしたような記憶がある。

砂丘の中でも僕のお気に入りには真ん中あたりにある「馬の背」僕は、すり鉢と呼んでいた砂の絶壁である。50メートル近くある砂の絶壁をざくざく、ずるずると足をとられながらも息を切らせてよじ登るのである。途中で挫折して戻って行く観光客をしり目にてっぺんまでたどり着く。そこには何も遮るものもない360度の空。目の前には真っ青な海が広がっている。真下の海岸線に白く波が打ち寄せている。その時の開放感は子供心に例えることができない心地よさであったに違いない。しかも彼方の水平線に沈む夕日に息をのむ。とても言葉では表現できないほどの美しさに一瞬、目がくらみ

我を忘れる。現在ではパラグライダーのベストポジションになっているようだ。また季節ごとに砂丘の起伏も微妙に変わる。風が砂の表面を撫で模様をつくる。砂丘の様子は流動的にたえず変化しながら自然の様々な姿を見せてくれる。

その他、鳥取砂丘は多くの文人に愛され、小説の舞台として、あるいは詩歌の題材として、人々の心を魅了してきた。特に「鳥取砂丘」の名を一躍全国に広めたのは、有島武郎である。大正12年4月末、講演のために鳥取市を訪れた有島は鳥取砂丘で一首の歌を詠み、そのわずか1カ月ほど後の6月9日、軽井沢の別荘で愛人の波多野秋子と情死して日本中に衝撃を与えた。さらに7年後の昭和



夏、夕日が海に沈むと夜空に天の川が流れ、海上には漁火が数を増す。

5年5月、夫 鉄幹とともに鳥取市を来訪した与謝野晶子は、有島を偲んで砂丘ですすり泣きを始め、周囲を慌てさせたという。有島が詠んだのは、次の一首。「濱

坂の遠き砂丘の中にして侘ひしき我れを見出てつるかな」
ここ数年すぐそこにある大砂丘に足を運ぶことも無くなった。自分の中にある少年の心が無くなっ

てしまったからなのだろうけど、もう一度あの砂の絶壁に行ってみよう。（昭和60年卒 中尾淳司）



砂の絶壁 馬の背を下から望む



風紋



パラグライダーに秋風を送り込む。



砂丘の春は海からやってくる。暖まった海が、やわらかな風を送ってくるのだ。

会 員 往 来

劇団「幕の内」。これが現在、東京歯科大学演劇部の劇団名です。

藤本かな子さんと服部善明君。十数年近く前のある日、二人の3年生が、お芝居がしたい！と声をかけてくれました。

今どき、演劇をしたいといってくれる学生たちがいたことに驚いたものの、早速、クラブの立ち上げに学生課にいったところ、演劇部はいつの間にか廃部となってしまっていました。たしか、休部となっていたはずなのに…です。しかも、信じられないことに、かつての演劇部の部室はほかのクラブに取られ、荷物置き場となっていました。これも廃部となった憂き目、仕方がありません。何度か掛け合ってはみたものの、結局は同好会から始めて実績を積んだ後に、承認を得てクラブに昇格する道しかない、との結論になりました。

それでも、観客10人？本番中に子供が歩き回るような、蘇我のうらびれた公民館での初演から始まった劇団「幕の内」は、二人の芝居にかける熱意で、仲間たちが次々と加わり、千葉校舎の講堂をホームとして活動してきました。

何よりも素晴らしいのは、演劇が好き！という仲間が、緩やかな上下関係の中で、何日も大学の合宿所に泊まり込み、一つ一つの作品をきちんと仕上げていくということ。そして、オリジナルの脚本を書くひとたちがいて、脚本の中に自分の思いを吐き出し、観客を巻き込んで大きな感動を与えていっているということ。本番の舞台の最前列で、カメラのファインダーの中の彼らの生き生きとした表情と、その思いに、何度、涙をあふれさせたかしれません。本番の舞台には、何かとてつもなく大きなエネルギーがあふれています。

卒業してからもお芝居への情熱を立ちきれない、そんな彼らが立ち上げた「劇団☆東京 SaVannaT's」。ますます素敵に輝く彼らに、これからも期待していきたいと思います。

演劇部・部長 橋本貞充



2006年11月9日 演劇部公演「演劇部メランコリーベイビー」千葉校舎講堂 公演終了後の集合写真

サークルから小劇場へ

岩 田 美奈子 (平成21年卒)

東京歯科大学に通称「幕の内」という演劇部があるのをご存知でしょうか。かつて盛んに活動していた東京歯科大学の演劇部は一時廃部となってしまいましたが、1999年にその「幕の内」を演劇サークルとして立ち上げ、橋本貞充先生を部長としてメンバーを増やし、その後部活として再度承認していただくに至りました。年2回ほど大学の講堂を中心に公演を行い、公演前の1ヵ月は合宿をしながら一所懸命に稽古に取り組んだ日々。友人や先生方、近隣住民の方に見に来ていただけることもありました。初心者が多く、手探りで一つ一つの公演を乗り越えたという感じです。

その「幕の内」の立ち上げから中心となり、卒業後も後輩の指導に関わってきた藤本かな子が、東京歯科大学の矯正科研修過程を終え、長らく燻っていた想い「やっぱり芝居がしたい！」を現実とすることになります。大学を卒業し、歯科医師としてスタートしたOBを召集。皆、それぞれに働きながらも演劇への熱は冷めておらず、時期を見計らって東京の小劇場で公演を打ってみようということになりました。大学の部活を離れ、新たな劇団名は「劇団☆東京SaVannaT's」。サバンナティースと読みます。やはり仕事の都合上、積極的に参加できるのは主催の藤本を含め女性5人となりました

た(平成17年卒大石美穂、平成18年卒柳瀬英理子、平成21年卒岩田美奈子、平成21年卒松浦 姫)。

そして2010年2月13、14日池袋小劇場にて、藤本がファンとして観劇していた筑波大学出身の劇団、劇団鋼鉄村松の演出家バブルムラマツ氏を作・演出に迎え、旗揚げ公演を敢行しました。私達5人のために書き下ろしていただいた「夜明けとともに目が覚める」という芝居です。リストラにあい住む場所も失った主人公が潰れかかっているレディース軍団と偶然出会い、彼女たちとの交流の中で成長していく…こう書くと突拍子もないようですが、笑いあり涙あり、結果的になかなかの好評をいただきました。舞台裏では、いざ公演を打つといっても学生時代のようにはいかず、勤務時間の異なる中での稽古、使い勝手の分からない小劇場、季節柄皆順番に風邪を引いたりと苦労も多いものでした。しかし振り返ると、念願を叶えているんだ!という強い想いで必死になっていたことが、芝居を通してお客様に伝わったのかなと思います。

その後、2011年4月9、10日に浅草橋アドリブ小劇場にて「フローズン・ビーチ」(作:ケラリーノ・サンドロビッチ)、2012年8月31日~9月2日に同じくアドリブ小劇場にて「法王庁の避妊法」(作:飯島早苗)と、年1回

ペースで公演を続けています。合間に外部の劇団に出演しているメンバーもおります。必死、無我夢中というところから、少しずつ楽しめるようになってきたでしょうか。

この場をお借りして、大学関係者の方々、先生方に毎回多数ご来場いただいていることに心より御礼申し上げます。歯科医師として若輩者でありながら、演劇活動にご理解と応援を賜わり、本当に感謝しております。

今後の具体的な活動は未定ですが、2013年も何かしら公演を行いたいと考えています。ご興味をもたれた方がいらっしゃいましたら、観劇だけでなく出演でも!ぜひお声をおかけくださいませ。



小児歯科学会にて (岩田)



小児歯科にて (左から2人目・岩田)

「しかい」と「しばい」と

藤本 かな子 (平成15年卒)

歯科医師を始めて、ようやく10年目になりました。こんなヒョッコが趣味の話を大いに書いて良いという機会をいただきまして、本当にありがとうございます。私は東京文京区に住みながら、所属「劇団☆東京 SaVannaT's (サバンナティース)」と外部の劇団「鋼鉄村松」を掛け持ちし、大好きな芝居をしながら歯科医師をするという生活をしております。

もとはというと私は中学のころから演劇部というものに所属してはいたものの、なかなか恵まれない演劇人生でした。成績が下がると休部、上がると復活というドタバタした部活動をしてきたせいか、どうしても大学でも演劇をやりたいというフラストレーションを溜めていました。大学の部活の設備はさぞ素晴らしいものだろう。そして、演劇の先輩がたくさんいるに違いない！と胸踊らせて入ってみると、なんとうちの大学には演劇部が無い！（もちろん学

業をする為に入学したのですが）これでは大学生生活の半分の楽しみが無くなってしまった、と一度は失意に落ち、一旦他の部活に入っていました。しかし、やりたいなら作ればいいじゃないか！と学部3年生の頃に同級生らと一念発起し、演劇同好会「幕の内」を立ち上げ、大学での演劇活動を始めたのです。

さて作ってみたものの、先輩がないのです。練習のノウハウも公演の打ち方もわかりません。大学内に講堂があるものの、まったく使い方が分からないのです。そして演劇は個人ではなく、例えるなら団体競技なので、一人でやたら練習したからといって素晴らしいものができるわけではありません。「大勢が集まって、どこまで伝わるものができるのだろうか。分からないなりにどうやったら的確な演出できるのか、人が好きになるような人物にうつるのか」必死でした。何も分からない後輩を率

いてとにかく頭数を集めないと公演ができないのです。このころの座右の銘は「なんとかなるじゃなくて、なんとかする」でした。誰にも頼れないが大きく構えていないといけなくて必死でした。

第一回公演は蘇我の無料で使えるホールで行いました。観客は10人未満だったと思います。何故そんな人数だったのか？宣伝をほとんど行わなかったからです。当たり前なのですが、そんなことも分からず、一つ一つが経験でした。それでも何年かやっているとそれなりにノウハウが分かってきて、有望な後輩も出て来て観客動員100人を超え、とてもやりやすくなってきました。それでも忙しい学業の合間でしたので、結局4年間で役者として公演に出られたのは3回だったと思います。

そうして卒業後は演劇からしばし離れ、矯正科に入局し忙しい3年間を終え、それから水道橋病院に移動し認定医を取得させていた



登院中 (藤本)



矯正科にて (左から3人目・藤本)

できました。

はて、すこし時間に余裕ができたなあ…芝居がしたい!!!と、また芝居したい病がむくむくと沸き起こってきたのです。しかし東京に移ってきたのだから…よし!!OBの受け皿になる劇団を作ろう!

先ほども述べましたが、演劇は団体競技なのです。せっかく6年続けて上手くなってきたのに、卒業してバラバラになってしまったら芝居したいな~と思っても一人じゃ何もできない。もったいない!というおせっかい心と単に自分がやりたい!と思ったからです。そういうわけで2010年「歯科女医劇団」「劇団☆東京 SaVannaT's」を立ち上げました。サバンナティースの一部にティース (TEETH) = 歯という意味が入っています。そして、第一回公演は私が学生時代から大好きだった「劇団鋼鉄村松」の脚本・演出のバブルムラマツさんの手を借り、始めて外の小劇場で公演を行うことができました。歯科医師という仕事柄、稽古開始は通常の劇団よりも遅くまた小劇場のノウハ

ウも無く、たくさんの苦勞と迷惑をかけましたが、終ってみれば観客動員250名と大盛況でした。

現在サバンナティースは年1回公演をし、その合間に、個人個人は自分の仕事と相談しながら、他劇団にも誘っていただいたら出演をする(客演)という具合です。私はこの3年間で8本もの芝居に出演させていただきました。いろんな劇団、演出を受けることで、視点も発想も違って、とても勉強になり続ける程面白くなっていきます。

芝居を通じて感じるのは、大きな企画を運営する難しさ、人間を動かす難しさ、コミュニケーションの大切さ。そして、外部の劇団にお邪魔するようになってからは特に自分が歯科医師以外の人と話をする機会がこんなに無かったのかと、話すネタに困りました。しかし、今では私に芝居の先輩(外の劇団での友人)がたくさんでき、分からないことを教えてもらえる。それだけでも嬉しくて、自分の公演も楽になり、やっと楽しく芝居ができるようになりました。

ずっと同じ事を続けてきて一番は感謝です。右も左も分からない、蘇我での10人未満の公演に来て下さっていた方が今「サバンナティース」の公演に来て下さっていること、私の企画に参加してくれる後輩達、しょっちゅう顔を会わす間柄でもなくなってしまったのに公演に駆けつけてくれる友人、助けてくれる人がたくさんいてようやく自分のやりたい事ができている。本当に感謝しています。

この生活がどこまでできるか分かりませんが、自分に子供が産まれるまでは、勘弁してもらえないかな~と呑気に構えております。たかが趣味されど趣味。程度が大切とも思いますが、歯科医師なのに演劇なんて!と目くじら立てられることも多いですが、どうか温かい目で見守ってやってください。

「劇団☆東京 SaVannaT's」
HP <http://savannats.web.fc2.com>
FaceBook <http://www.facebook.com/SaVannateeth>



1999年「幕の内」第一回公演 蘇我にて
(中央白衣・藤本) 大道具はソファのみでした!



2000年「幕の内」第二回公演 講堂にて
相変わらず大道具はベンチと机と寂しいものです。



2001年「幕の内」第三回公演



2002年「幕の内」第四回公演



「幕の内」集合写真
(中央下・橋本先生 最左・岩田 その上・藤本)



2010年 客演先楽屋にて (左・藤本 右・岩田)



2010年 客演先にて (右・岩田)



2011年 客演先にて (左・藤本)



2012年 客演先にて (右・藤本)



2012年 客演先「鋼鉄村松」集合写真 (最右・藤本)



2010年「サバンナティース」第一回公演
池袋小劇場にて1（左から 大石・松浦・柳瀬・岩田）



2010年「サバンナティース」第一回公演
池袋小劇場にて2（岩田・柳瀬）



2010年「サバンナティース」第一回公演 集合写真



2011年「サバンナティース」第二回公演
アドリブ小劇場にて1（松浦・柳瀬）



2011年「サバンナティース」第二回公演
アドリブ小劇場にて2（岩田・柳瀬・松浦）



2012年「サバンナティース」第三回公演
アドリブ小劇場にて（中央・岩田）



2012年「サバンナティース」第三回公演 集合写真



2012年「サバンナティース」第三回公演
大道具もここまで豪華になりました!!

症例レポート

会員各位

このたび、東京歯科大学市川総合病院オーラルメディシン・口腔外科学講座および、東京歯科大学同窓会東京地域支部連合会のご厚意により、BP 製剤服用患者顎骨壊死の貴重な治療症例をご提供いただきました。日常臨床の一助としていただければ幸いです。

口腔衛生の不良を契機に発症した
ビスフォスフォネート関連上顎骨壊死
の1例

東京歯科大学
オーラルメディシン・口腔外科学講座
井桁薫子 片倉朗

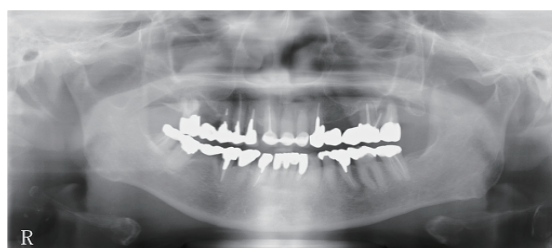
ビスフォスフォネート製剤 (BP 製剤) は骨粗鬆症や悪性腫瘍の骨転移など骨吸収が亢進する疾患の治療薬として広く用いる薬剤であるが、副作用として BP 関連顎骨壊死 (BRONJ) が多数報告されている。今回我々は、口腔衛生の不良を契機に急速な口腔粘膜の壊死を伴う上顎骨の BRONJ に対し、外科的治療を行って軽快を得た1例を経験したので報告する。

【症例】

- 〈患者〉 81歳 女性
〈初診日〉 平成22年8月21日
〈主訴〉 歯肉の疼痛
〈現病歴〉 平成22年8月に上顎右側第一大臼歯部口蓋側歯肉の腫脹を認め近歯科医にて投薬を受けたが改善せず。右頬部腫脹を認めるようになったため、8月21日に精査、加療目的で当科に紹介された。
〈既往歴〉 骨粗鬆症 (平成19年より BP 製剤 (アクトネル®) 2.5mg/day) 関節リウマチ (平成17年より免疫抑制剤 (トレキサメット®) 2mg/day) 脊柱管狭窄症手術 (平成19年) 高血圧 (昭和45年よりノルバスク®アモバン®) 白内障 (平成17年に手術療法)



ミラー像



パントモ画像

- 【処置および経過】 外来
8月21日 細胞診にて Class I
8月26日～CAM(クラリス®)200mg×2/day
8月27日病理組織検査で壊死組織との結果



【処置および経過】 入院・手術



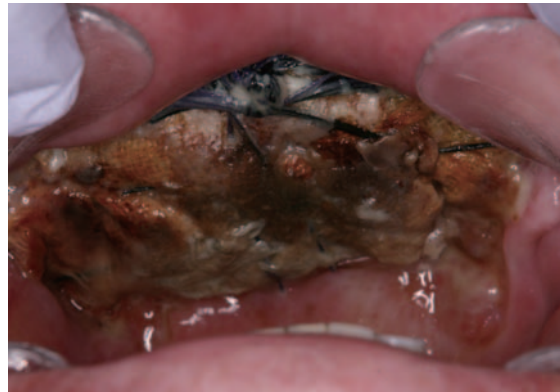
11月22日～25日
SBT/ABPC(ユナシン S®) 1.5g × 4/day
11月26日～12月2日
CLDM (ダラシン®)600mg × 2/day



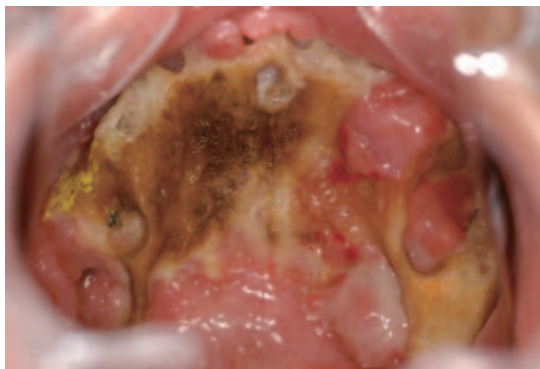
1月31日
全身麻酔下に上顎骨を両側にわたり歯を含めて切除した。



12月14日～23日
MEPM(メロペン®) 0.5g × 3/day + 0.5g × 3/day



術後6日目



12月28日～1月30日
CPFX(シプロキササン®) 300mg × 2/day



術後10日目



術後 16 日目
保護床を装着して二次治療を図る。



術後 50 日目
【退院後】



術後 5 カ月目



顎義歯を装着して咬合・咀嚼機能を回復

現在も外来にて経過観察中だが、再発所見もなく経過は良好である

【ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 BRONJ について】

① 診断基準

以下の 3 項目の診断基準を満たした場合に、BRONJ と診断する。

- (1) 現在あるいは過去に BP 製剤による治療歴がある。
- (2) 顎骨への放射線照射歴がない。
- (3) 口腔・顎・顔面領域に骨露出や骨壊死が 8 週間以上持続している。

② BP 製剤投与患者の歯科治療

注射用 BP 製剤投与中の患者に対しては、侵襲的歯科治療を行うことの是非について明らかな見解は得られていない。一方、BP 製剤の休薬が BRONJ 発生を予防するという明らかな臨床的エビデンスも得られていない。そこで、注射用 BP 製剤投与中の患者には、BRONJ 発生のリスクと歯科治療効果を勘案し、原則的に BP 製剤投与を継続するのが好ましい。経口 BP 製剤投与中の患者に対しては、侵襲的歯科治療を行うことについて、投与期間が 3 年未満で、他にリスクファクターがない場合は BP 製剤の休薬は原則として不要である。しかし、投与期間が 3 年以上、あるいは 3 年未満でもリスクファクターがある場合は判断が難しく、処方医と歯科医で主疾患の状況と侵襲的歯科治療の必要性を踏まえた対応を検討する必要がある。BP 製剤の休薬が可能な場合、骨のリモデリングの期間を考慮して休薬期間は少なくとも 3 カ月が望ましい。(BP 製剤に関する歯科治療ポジションペーパーより)まず、投与の対象となっている疾患への BP 製剤の有益性を考慮した上で歯科的対応を検討すべきで、処方医への対診はかかせない。口腔内環境を整備して BRONJ の発症を予防することが歯科医にとって最も重要な責務である。

BRONJ 発生患者の治療について
BRONJ 病期のステージングとその治療法

	ステージング	治療法
ステージ 0 (注意期)	骨露出/壊死は認めない。 オトガイ部の知覚異常 (Vincent 症状), 口腔内瘻孔形成, 深い歯周ポケット 単純 X 線写真で軽度の骨溶解を認める。	抗菌性洗口剤の使用 瘻孔や歯周ポケットに対する洗浄 局所的な抗菌薬の塗布・注入
ステージ 1	骨露出/壊死を認めるが無症状。 単純 X 線写真で骨溶解を認める。	抗菌性洗口剤の使用 瘻孔や歯周ポケットに対する洗浄 局所的な抗菌薬の塗布・注入
ステージ 2	骨露出/壊死を認める。 痛み, 膿排出などの炎症症状を伴う。 単純 X 線写真で骨溶解を認める。	病巣の細菌培養検査, 抗菌薬感受性テスト, 抗菌性洗口剤と抗菌薬の併用 難症例: 併用抗菌薬療法, 長期抗菌療法, 連続静注抗菌薬療法
ステージ 3	ステージ 2 に加えて, 皮膚瘻孔や遊離腐骨を認める。単純 X 線写真で進展性骨溶解を認める。	新たに正常骨を露出させない最小限の壊死骨搔爬, 骨露出/壊死骨内の歯の抜

		歯, 栄養補助剤や点滴による栄養維持 壊死骨が広範囲に及ぶ場合: 辺縁切除や区域切除
--	--	---

【考察】

今回, 我々は初診時から約 2 カ月で BRONJ による重症感染症に陥った症例を経験した。現在までに報告されている BRONJ の症例の多くは, 抜歯後や義歯性潰瘍により骨が露出した部位に発症しており, 下顎が高頻度に発症している。本症例は抜歯等の外科処置は行っておらず, 歯周病が発端となり軟組織の破壊を中心とした疾患で, 頻度の低い上顎に自然に発生したのが特徴である。BRONJ は顎骨にのみ発生することから, 顎骨の特殊性を考慮して, 口腔清掃を徹底することにより BRONJ 発生頻度を低下させることができると考える。本症例では治療の反応性が悪く, 壊死拡大の抑制が困難であったためステージ 3 まで症状が進行し外科的処置を行った。今後, BP 製剤を投与されている患者に対し歯科治療を行う際は, 現疾患の主治医と密接に連携し治療すべきであると思われる。また, BP 製剤投与前に歯科を受診し, BRONJ を予防するよう医科・歯科が連携していくことが重要であると考えます。

【引用文献】

ビスフォスフォネート関連顎骨壊死検討委員会
ビスフォスフォネート関連顎骨壊死に対するポジションペーパー

若手ネットワーク委員会 からのお願い



事業推進部常任理事

高 野 博 子

平成24年1月より矢崎会長のもと事業推進部の中に「若手ネットワーク委員会」が立ち上げられました。私は、「東京都女性歯科医師の会」の発足に関わり、様々な立場を持つ女性歯科医師の会は、同窓会や大学との連携が大切、との考えがきっかけになり担当理事を受けさせて頂きました。役員になり、初めて同窓会会費納入の現状を示すデーターを拝見して、私は驚くとともに「もったいない」と感じました。皆様は、20年前より急速に卒業生の同窓会離れの傾向が始まっていたことをご存知でしたか？ここ5年で1,000名の会費納入が減ってしまっている現状のままでいきますと、今の若手同窓やこれから卒業する学生が活躍するであろう20年後には同窓会の存続すら危ぶまれます。近年、国家試験が難関になり、卒業後すぐには同窓会入会を考える余裕が若手同窓にはありません。しかし、歯科医師としてのライフワークを構築するには歯科医学の世界はやるべきことが沢山あり、社会性が求められます。私は小児歯科学会に所属していますが、小児歯科学会が創立された50年前は、東京歯科大学の同窓の先生方が全国でパイオニアとして活躍されました。私

は、この歳になって他校28大学の先生方から「東京歯科大学の品格」を教えられます。品格は、私利私欲を追求するのではなく社会への貢献から生まれます。私も日々努力して参りたいと思っておりますが、同窓には品格を具えられた先輩方が沢山いらっしゃいます。必ず先輩方は惜しげもなく後輩の道先案内人になってくれるはずですので、若手の先生方には頑張って「東京歯科大学の品格」を継承して頂きたいと願います。

そこで、「若手ネットワーク委員会」ではこの危機的現状を改善するために「若手会員、女性会員との連携強化」「会員の支部入会促進」を目標に、62年卒木暮隆司先生を委員長、59年卒坂入道子先生を副委員長として、下記4つの企画を立ち上げ活動を開始しています。

1) 若手ネットワークの構築 今年度より支部長の先生方からご推薦頂いた「若手ネットワーク担当」の先生方と一緒に、各支部での現状をご理解いただき、61年卒岡村美恵子先生、57年卒黒田由紀子先生を中心として、活動を始めていきたいと思いません。2) 若手支援セミナーの開催 昨年は「デンタルナビゲーション-研修医から臨床医へ-」と題してTDC13階で12月9日(日)におこなわれました。卒業5年までの先生方は他校でも無料とさせていただき、100名以上の参加を得て、若い先生方から好評を得ております。3) 同期会開催の支援 卒業5年目以降の支部加入促進、同期各学年の結束作り、さらには後輩たちへの伝承をめざして62年卒牧野寛先生を中心に、同期会のサポートを企画しております。4) 情報伝達の確立 ホームページ・フェイスブック等、新しい情報手段を検討し、タイムリーに若手会員が必要とする情報内容を整理し発信する事業展開を60年卒の佐々木葉子先生を中心に進めています。

各支部におきまして、新たな事業を始めることはとても大変なことと思いますが、若手ネットワーク担当の先生方を中心に準会員の在学生、卒業5年までの新進会員をはじめ若手同窓の先生方に一人でも多く同窓会の事業に自主的に参加する機会を作って、同窓会の意義を感じて頂きたいと思いません。皆様方のご理解、ご協力、ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。



同窓会に思いを寄せて

地域選出理事（東海） 太田 昭二

2011年3月11日の東日本大震災は私たちに大打撃を与え、忘れられない、いや忘れてはいけない出来事として心に留めることになりました。昨年の6月の移動理事会で石巻を視察した時、津波の被害のすさまじさもさることながら、バスの中で挨拶された被災者の鈴木 裕先生の流した涙は災害を受けた悲しみとつらさと同時に、同窓会の支援に対する感謝とお礼が込められていたと思いました。同窓会の存在価値がここにも表われていました。

私は縁があり東京歯科大学に入学することが出来、尊敬する先輩、気の合う仲間や後輩達に恵まれ楽しく素適な青春時代・学生時代を過ごしました。当時は今ほど物が豊かではなかったですが、将来に対する明るい夢や希望があふれていたように今では思い返すのですが、時代も高度成長の波に乗り、この素晴らしい時が永遠に続くものと思っていました。ところが、バブルがはじけ出口の見えない暗いトンネルに入った状態が続いているところに、東日本大震災と福島原発事故が起きました。私たちは生活のあり方はもちろん生き方までも変えなければならなくなりました。今までの経済至上

主義、安全安心神話をもろくも崩れ、私たちは何を求めて生きてきたのか、今までのしきたりを見直し原点に戻って考え方を改めなければなりません。

その原点とは人にやさしい、人のためになるなど思いやりの心を持つことです。それはむずかしいことでも何でもなく当り前のことです。震災を見ても当り前のことが当り前にできなくて苦しんでいる人が何と多いことか、当り前のことができるありがたさに感謝しながら東歯の同窓生には可能なことです。6年間同じ大学、同じ空気を共有した者しかわからない何かを私たちは持っています。それは血脇イズム、校歌にもうたわれている「医はこれ濟生ひとへに仁なり」にあるように自然と体に染み込んでいるからです。それは東歯のDNAでもあります。

この歳になると歯科医師会の役員をする機会が多くなり、その時にはいつも東歯のOBとしての自覚と誇りを持ち、またそれを自信に変えて活動してきました。それには同窓の先輩の存在がどれ程たのしかったかわかりません。この流れを是非後輩にも伝えていきたいものです。ところが若手の先生の入会が減少しているとのこ

と、日本は高齢化社会を突き進んでおり、私たち団塊の世代も高齢者の仲間入りをし同窓会も高齢者人口が増加し、ますます人口構成が逆三角形の先細りが強くなって組織としては弱体化する危険性があります。では、どうしたら入会者を増やしていけるのか、まずは私たち会員自身が範を示す仕事や行動することで同窓会自体の質を上げ高めて、若手の先生が入会したくなる同窓会を築き上げることです。そして同窓会に入らなければならない入りたい状態になるような状況になればいいと思います。

しかし、そこにも一人一人に同窓生としての意識を持たせる施策が必要です。同窓会本部が若手を支援するプロジェクトをしておりそれにも期待すること大です。そこに存在するのは、同じ職業を選んで同じ大学を出て歯科医師となったことによる母校への思い、それを愛と言ってもいいでしょう。愛には夫婦愛・家族愛・郷土愛とかいろいろありますがそれと同じかそれ以上に自分を育ててくれた母校愛に目覚めてほしい。そうすれば東京歯科大学同窓会を支える力が強まり未来は明るく輝くものと強く信じております。



私と東京歯科大学

地域選出理事（北陸） 加藤 成俊

私は、昭和23年に、菅野将雄（昭和7年卒）の第8子（男5人、女3人）として、福島県二本松市（当時は二本松町）に生まれました。その後、加藤敏行（昭和16年12月卒）の養子となり、金沢市に転居いたしました。兄の菅野将士（昭和35年卒）と菅野則男（昭和43年卒）の二人も東京歯科にお世話になりました。東歯関係の親兄弟では私以外は皆亡くなりましたが、まさに東京歯科一色の家族です。私の息子（加藤大二 平成17年卒）も甥の二人（菅野雅也 昭和63年卒、菅野宙史 平成8年卒）も皆、東京歯科です。

私は、昭和49年に卒業いたしました。東京東十条の山中歯科（恩師山中喜夫先生 昭和42年卒）に勤務して、多くのことを学ばせていただきました。その後、金沢の敏行のもとへ帰り、昭和54年7月には、父とともに現在の場所にて開業いたしました。

さて、同窓会ですが、そんな環境ですので、金沢に帰ってきたらすぐに、東京歯科大学同窓会石川県支部に何も考えるまでもなく、当然のように入会いたしました。帰ってきたのが3月の末でしたが、翌4月には同窓会の定時総会があり喜んで父とともに参加いた

しました。私は、在学中柔道部でしたので総会の宴席では、酒を強要させられたり、先輩からの何かの命令などがあってもいいように、しっかりと覚悟を決めていたのですが、実際は全くそのようなことはなく、逆に大先輩からお酌していただいたりして、やさしくかわいがっていただき、大変、感激して帰ってきたことを今でも、はっきりと覚えております。

その後、歯科医師会の各種委員や委員長などもやりながら、歯科医師のやるべき道などを先輩方からいろいろと教えていただき、少しずつですが、人としてあるべき姿勢がおぼろげながら見えてきたような気がしてきました。

それから、金沢市歯科医師会の理事を任命されて16年になりました。うちこの7年は金沢市歯科医師会の会長もさせていただき、毎日毎晩、会議の日々を送っております。毎日のようにいろんなことがおこります。それに対して一つ一つ解決していかなければならず、これも東京歯科在学中から教わりました「血脇イズム」のおかげと、感謝いたしております。

又、現在石川県同窓会支部長として皆様のまとめ役をさせていただいておりますが、私のモットー

は、同窓会員が出来るだけ多くの機会をもち、勉強も大切ですが、なによりもお酒を飲んでお話をすることです。年間に4月の総会、12月の忘年会、1月の新年会と新たに数回の勉強会を兼ねた宴会を行っております。これは、支部の先輩方が以前開いていた「14日会」を復活させたものです。当時は毎月14日に例会を開いていたのですが、だんだんと消滅してしまっていたもので、今は、毎月ではなく、不定期ですが約2～3ヵ月ごとに開いております。この会では、先輩も後輩もわけへだてなくいろいろな情報交換や解らないことをきいたり、遊びの予定をたてたり、皆それぞれに楽しんでおります。

最近では、特に、若手の先生方が同窓会に入らないというお話を耳にしますが、こんなに楽しい同窓会にどうして入らないのか私にはよくわかりません。私がもし同窓会に入っていなかったら、大変寂しい思いをしたのではないかと思います。豊かな人生と、楽しい友との語り合いの場をもっともっと増やすためにも、是非是非、同窓会に参加されることをお勧めいたします。

お知らせ

理事会より

- 同窓会報390号（2月号）をお送りします。編集の関係で発送が3月になりましたことをご詫言いたします。
- 今号よりA4版となり、活字のポイントも大きくなりました。さらに読みやすくなりやすい会報となるよう努めてまいります。ご講読よろしくお願ひします。

同窓会事業・行事

- 第41回全国ゴルフ大会
と き 平成25年9月12日（木）
ところ 横浜カントリークラブ（神奈川県）
- 平成23年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会
と き 平成25年11月17日（日）
ところ 東京歯科大学（水道橋）
- TDC 卒後研修セミナー2013プログラム

同窓会フォーラム

東京歯科大学同窓会フォーラム

『超高齢社会を迎えての、歯科医療におけるパラダイムシフト』

2月24日（日）

No.3 実習セミナー『ゼロから学ぶセファロトレーシングと症例分析』

6月9日（日）・7月7日（日）
・9月29日（日）

卒研セミナー

No.1 ディスカッションセミナー『最初に診ること、ずっと診ること』

～臨床記録の重要性を理解しよう！～

4月14日（日）

No.4 臨床セミナー『歯科疾患!! どこから手をつける?』

～病態の理解とタイプ別臨床診断・治療計画～

10月13日（日）

No.2 イブニングセミナー『今日からはじめるこだわりの補綴』

～補綴物に現れる基本の重要性～

5月16日（木）

No.5 実習セミナー『CAD/CAMを極める』
～初めてのオールセラミックス・支台歯形成の基本から合着まで～

11月10日（日）

No.6 イブニングセミナー『今日からはじめるこだわりのペリオ』

～歯根膜の臨床観察と歯周治療～

11月14日（木）

地域支部連合・支部関係

●地域支部連合会会長の交代

平成25年1月1日付

東北地域支部連合会 齋藤 利明 氏（昭45卒）

前連合会長 黒澤 祐一 氏（昭51卒）

東海地域支部連合会 成瀬 健 氏（昭50卒）

前連合会長 荻原 英生 氏（昭48卒）

関東地域支部連合会 高原 正明 氏（昭52卒）

前連合会長 杉山 紀子 氏（昭54卒）

● 支部長交代

平成25年1月1日付

神奈川湘南支部 前支部長	村岡 輝雄 氏 (昭54卒) 美原 正信 氏 (昭50卒)	東信支部 前支部長	阿部 高夫 氏 (昭50卒) 土屋 栄良 氏 (昭49卒)
神奈川西湘支部 前支部長	古井 瞭 氏 (昭48卒) 有近 徳幸 氏 (昭43卒)	岐阜県支部 前支部長	西尾 有生 氏 (昭47卒) 国島真希子 氏 (昭51卒)
麴町支部 前支部長	下江信太郎 氏 (昭44卒) 大野 誠 氏 (昭42卒)	大分県支部 前支部長	吉武 勝 氏 (昭44卒) 吉澤 健介 氏 (昭39卒)
浅草支部 前支部長	中野 正博 氏 (昭55卒) 蛭谷 剛文 氏 (昭53卒)	平成25年1月26日付 宮崎県支部 前支部長	岩田 充了 氏 (昭52卒) 清水 英男 氏 (昭50卒)
墨田支部 前支部長	中西 国人 氏 (昭53卒) 小貫 克 氏 (昭42卒)	平成25年2月3日付 滋賀県支部 前支部長	藤居 正博 氏 (昭50卒) 北村 真也 氏 (昭46卒)
城東支部 前支部長	久保 秀二 氏 (昭56卒) 市川 邦彦 氏 (院・昭57卒)		
中信支部 前支部長	上條 智生 氏 (昭43卒) 飯島 和彦 氏 (昭42卒)		

母校関係行事・案内

- 平成25年度東京歯科大学入学試験
一般入学試験 (Ⅱ期)
大学入試センター利用試験 (Ⅱ期)
編入学試験 平成25年3月9日 (土)
詳細は387号 (8月号) 27~28頁に記載
- 第118回東京歯科大学卒業証書・学位記授与式
と き 平成25年3月15日 (金) 午前10時
ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂
- 平成25年度東京歯科大学入学式
と き 平成25年4月5日 (金) 午後1時
ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂
- 東京歯科大学歯科衛生士専門学校卒業式
と き 平成25年3月8日 (金) 午後1時
ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂
- 東京歯科大学歯科衛生士専門学校入学式
と き 平成25年4月4日 (木) 午前10時
ところ 東京歯科大学千葉校舎講堂

平成25年度 理事会・常任理事会, 卒後研修セミナー, 広報部広報委員会
年間開催日程表

理事会・常任理事会		TDC 卒後研修セミナー2013		広報部広報委員会	
開催日	区分	開催日	研修内容	開催日	作業内容
1月12日(土)	第1回 理事会			1月10日(木)	2月号編集
2月13日(水)	第1回 常任理事会	2月24日(日)	同窓会フォーラム 東京歯科大学同窓会フォーラム	2月15日(金)	年間企画
3月23日(土)	第2回 理事会			3月5日(火)	年間企画
4月17日(水)	第2回 常任理事会	4月14日(日)	卒研セミナー No.1 ディスカッションセミナー	4月10日(水)	6月号企画
5月25日(土)	第3回 理事会	5月16日(木)	卒研セミナー No.2 イブニングセミナー	5月10日(金)	6月号編集
6月26日(水)	第3回 常任理事会	6月9日(日)	卒研セミナー No.3 実習セミナー	6月10日(月)	8月号企画
7月24日(水)	第4回 常任理事会	7月7日(日)	卒研セミナー No.3 実習セミナー	7月10日(水)	8月号編集
				8月21日(水)	10月号企画
9月14日(土)	第4回 理事会	9月29日(日)	卒研セミナー No.3 実習セミナー	9月9日(月)	10月号編集
10月12日(土)	第5回 理事会	10月13日(日)	卒研セミナー No.4 臨床セミナー	10月10日(木)	12月号企画
11月16日(土)	第6回 理事会	11月10日(日)	卒研セミナー No.5 実習セミナー	11月11日(月)	12月号編集
		11月14日(木)	卒研セミナー No.6 イブニングセミナー		
12月21日(土)	第7回 理事会			12月3日(火)	2月号企画
(理事会7回・常任理事会4回)				平成26年 1月10日(金)	2月号編集

白須賀貴樹先生（平成12年卒）衆議院選に当選

先般の第46回衆議院議員総選挙において、千葉県第13選挙区より立候補された平成12年卒業の白須賀貴樹先生が見事に当選されました。

先生は、以前より政治活動を続けられてこられました。平成19年の参議院議員選挙においては、次点で苦渋を味わわれました。その後の期間にわたる地道な努力の結果が今回実られました。ご家族を含め、応援者の方々のご苦勞もさぞかし大変であったのではないかと思います。

白須賀貴樹先生は、昭和50年生まれで現在37歳のバイタリティー溢れる新進気鋭の歯科医師であり

ます。平成12年東京歯科大学を卒業後、口腔外科学講座に入局されました。同時期に白須賀学園野田聖華幼稚園理事長にもご就任されております。大学病院では20歳の時に他界されたお父様の死因であるがん治療を専攻されました。平成16年に白須賀歯科クリニックを千葉県流山市に開設されました。平成17年には流山中央福祉会 聖華保育園を設立され理事長にご就任になっております。平成19年の第21回参議院議員選挙においては387,395票の支持を獲得するも惜しくも次点でした。その後、平成22年に公募により自由民主党千葉県第13選挙区支部長となりまし

た。平成23年には社会福祉法人 樹 聖華いつき保育園を設立され理事長に就任されております。

選挙期間中は、同窓会本部より矢崎秀昭同窓会会長、佐々木眞澄担当常任理事、渉外委員会より岡野祐三委員長、宮吉正人副委員長が出陣式より、演説会の時、また当選した時に応援に駆けつけております。

若く活力のある同窓会員が国政に参加することとなりました。今後のご活躍を期待し、同窓の皆さまのご支援をお願い申し上げます。

（渉外担当常任理事・

佐々木眞澄 記）



右から、岡野先生（支える会会長）・浅野先生（千葉県歯会長）他の先生方と



東京歯科大学 創立120周年記念事業

井出学長との新春座談会

日 時：平成25年1月22日

場 所：水道橋校舎5階 法人役員室

出席者：

東京歯科大学学長 井出吉信

東京歯科大学同窓会会長 矢崎秀昭

副会長 宮地建夫

副会長 佐瀬俊之

若手ネットワーク担当理事 高野博子

広報委員会委員長 白田 準



白田委員長 本日はお忙しいところありがとうございます。それでは早速、学長との新春座談会を始めさせていただきます。まず初めに、矢崎会長よりご挨拶をお願いいたします。

矢崎会長 本日はご多忙の中、さらにお疲れのところ誠にありがとうございます。さきの大学の評議員会におきまして、次期学長に決まり、誠におめでとうございます。いよいよ水道橋の移転の年になりますけれども、学長先生にはあらゆる方面にいろいろ心配りなど大変なことと思います。同窓会としても、大学の移転が成功裏に進むよう最大限の支援を考えております。現状では血脇ホールの寄附に関しまして、その目標としております人数あるいは金額など、だいぶ差があります。同窓会とし

てはできるだけ多くの同窓との連携のもと、さらに多くの協力を得られるよう現在最大限の努力をしております。

白田委員長 井出先生、よろしくお願いたします。

井出学長 このような同窓会との座談会を毎年設けていただいていることは、大学の情報や大学の考えていることを同窓の先生方にお伝えできる大変良い機会であり、良い企画だと思っております。

只今同窓会長の矢崎先生からご紹介いただきましたが、平成25年1月16日開催の第680回理事会・第231回評議員会（臨時）にて、もう一期、再任というご下命がありましたので、東京歯科大学開学120年を超える中でも歴史的な移転の事業を進めておりますので、遺漏のないようにきちんと学長の

職務として移転を完遂し、今まで以上に東京歯科大学を歯科界のリーダーたる大学にしていきたいと思っております。改めて同窓の先生方のご指導とご支援をよろしくお願いたします。

移転事業を前にした大学の現況について

白田委員長 ありがとうございます。今年度は大学にとって120周年記念の締めくくりといたしまして大きな移転事業の年でもあります。移転に関して現在どれぐらい進んでいるのか、その辺についてお話を伺えればと思います。

井出学長 今回の移転は、一期と二期と分けて行っております。一期の計画では1、2年生のさいかち坂校舎と、3年生、4年生、6年生の新館校舎を建築しています。並行して現TDCビルを教育や臨床に使用すべく拡張、改装しており、その三つを主な柱として移転事業が進んでいます。スピードが一番大切なことと考え、できるところから移転を始めるということで、第一期の移転事業として



は今年の6月に完成します。

最終的には、これだけでは手狭なため、当初に計画したように、現TDCビルの裏手の三崎神社の通りに臨床および研究棟を建築する予定で、引き続き二期の移転計画を進めて参りたいと思っております。できれば5年以内に全てが完成して、最終的に移転が完了すると考えております。

今年度から稲毛の病院のあり方等を考える将来計画検討委員会を始めておりますが、まだはっきり決まっております。ご存じのように東日本大震災や、日本経済の状態等、いろいろなことがありますので、慎重に取り込みながら検討していく必要があると思っております。

ある程度お聞き及びのことと存じますが、近隣の歯科大学でも、医学部の病院と歯学部を一緒にして立派な建物を建てるとか、また、JRの駅が改装され駅の出口と病院がつながる等と、5年以内には他大学でも今まで以上に立派な建物が建設されますので、それに負けないようにするには、もう少し整備が必要だと思っております。

宮地副会長 この間ちょっと新聞に出ていましたけれど、その引越しが完成するまでの間に慶應大学と研究や教育で提携をしたということなので、それは東京歯科にとってもすばらしいことだと思う



んですけども、その辺の話はまだ会員にあまり伝わってないと思いますので、先生のほうから、どういう意図で進められたのかお話しいただけますか。

井出学長 ご存じのように血脇先生の頃から慶應義塾大学とは深いつながりがあります。市川総合病院や、基礎の講座に多くの慶應大学からの先生においでいただいておりますので、教育、研究や臨床の面でより一層のつながりを深めたいと思っております。人事交流を行う際には、今後、双方に齟齬が生じる事に成るといけませんので協定を結ぶ必要があると考えました。本来は慶應義塾大学と協定を結ぶ必要があるのですが、まず手始めに慶應義塾大学医学部と東京歯科大学とで協定を結びました。水道橋への移転もきっかけになっておりまして、慶應義塾大学医学部は多くの最先端の研究、診療を行っていますので、研究、教育、診療とそれぞれの面において今まで以上につながりを深くしたいと考えています。

また東京歯科大学は慶應義塾大学とは非常に深いつながりがあるということも、社会にアピールして受験生や一般の人にも周知できたらと思っております。さらに、慶應義塾大学にとっても市川総合病院は重要な病院だということも理解していただきたいと思っております。同窓の先生の一部から「買収されるのでは」との話をお聞きした事が有りましたが、今のところ本学も慶應義塾大学も全くその様な予定も、考えもありません。あくまでも教育、研

究、臨床でのつながりを今まで以上に緊密に持ち、水道橋と信濃町という10分で行き来できる距離を活用させていただきたいと思っております。

矢崎会長 水道橋病院もすばらしく改装され、ほとんど設備ができ上がってきたと思えますし、今度は内科も充実するときいています。水道橋に戻ってきたときに、この病院の最大の特色というか、何か新たなコンセプトで始まっていると思えます。それと、稲毛の千葉病院はそのまま残る。お互いの目標とするところをお聞かせいただければと思えます。

井出学長 水道橋病院は都市型の病院として最先端の医療の提供や近隣の都立病院等の医療機関や千葉病院、市川総合病院とも連携し、様々な角度から診療を行っていくように思っております。

稲毛の千葉病院は、患者さんが毎日1000人以上来院しています。いま高野病院長に非常に頑張ってもらっておりますが、最終的に、将来計画検討委員会で千葉病院のあり方を決めていかなければいけません。恐らく今までの通りということではなく、やはり地域で必要とされている口腔外科や、矯正、障害者歯科、摂食嚥下等、開業医の先生では難しい部門を、大学病院としての特色として打ち出していけるような形の千葉病院にしていくと良いのではないかと思っております。いずれにしても大きな建物なので、きちんとした経営に見合った病院、地域が必要とする病院、特徴のある病院にしていきたいと思っております。

市川総合病院に関しては、今ま

で以上に歯科の分野にも力を入れて、医科の先生にも理解してもらいながら、東京歯科大学の特徴として、周術期医療のように、医科と連携した「チーム医療」を強化していきたいと思えます。東京歯科大学での特徴である口腔がんセンターがありますので、三病院での連携を取り、市川総合病院を今まで以上に教育の場として、それから患者さんにとっても最高の治療ができる病院にすべく考えております。

臼田委員長 いずれにしろ千葉病院も千葉の地域の同窓の皆さんにとって役に立つというか、後ろ盾になっていただけるような病院を目指していらっしゃるということでしょうか。

井出学長 はい。

臼田委員長 移転の話にもどりますが、今年8月に学生が移動するそうですが、医局員も全てでしょうか。

井出学長 臨床の先生は千葉病院がありますから、まだ人事については、はっきりしていません。従前より少し早めに次期学長を決めていただいたのは、本来6月からの役職人事交代ですが、その前に病院長や副学長などの陣容を決めて4月頃から人の配置の準備をしようと思っております。もちろん基礎は全員移転します。竣工記念式典は8月31日、学生の新館校舎の開校式は9月2日に行います。日程を同窓の先生にお知らせしたいと考えております。

臼田委員長 もうでき上がっているのですか。

井出学長 はい。8月31日、新血脇記念ホールで竣工記念式典・祝

賀会を行い、そこでは東京歯科大学の祖である高山紀齋先生と血縁である慶應大学出身で映画武士の家計簿でお馴染の磯田道史先生に、新血脇記念ホールのこけら落としの講演をしていただく予定です。「明治の教育」(仮題)という題で、江戸から明治にかけての教育の変遷を、お話していただきます。

新血脇記念ホール建設のための同窓による寄付に関連して

臼田委員長 血脇ホールの話が出ましたが、新血脇記念ホール建設のための同窓からのご寄付の協力が少ないようですが、新たに今年も対策を立てて、佐瀬先生を中心にこれから頑張ろうとしていることをうかがいましたが、いかがでしょうか。

佐瀬副会長 今まで考えられることはほとんど皆さんやっていたいてるわけですけども3億円足りない。もう今度は地道に一人一人に握手しながらお願いするというような形だと思っています。それと会長にもう一度会員の先生方一人お一人にお願いの手紙を書いていただくということです。すめております。

それともう一つ、さいかち坂校舎を見たいというクラス会がありますが、さいかち坂の校舎にもし入れていただけるようなことがあったら、そのときに「寄附をい

ただけるんだったらお貸ししましょう」というようなことが可能であればと考えております。

井出学長 そのような機会には使っていただきたいと思っております。既に2回ほどクラス会見学していただきました。しかし実は、土曜日や日曜日は人手の関係でさいかち坂校舎は閉鎖しており、無人の警備となっております。その為どうしてもお断りせざるを得ない場合もあります。費用のことは申し上げにくいのですが、空調や警備員を入れると、恐らく3時間程校舎を開けておきますと、経費で20~30万位かかってしまうのです。

佐瀬副会長 詳しく聞いてみると経費その他が非常にかかる部分があって、寄付よりそっちのほうが経費がかかってしまうということもありますので、もしいいタイミングがあったらぜひともお願いしたいと思います。

井出学長 そうですね。先日もクラス会にご招待を受け、そこで寄付を頂きました。その際その事を少しお話させて戴きました。

臼田委員長 新血脇記念ホールに対する寄付ですが、同窓としての意識はどうなんでしょうか。

宮地副会長 寄付ということで最初に思っていたのとは違って、血脇記念ホールというのは、大学への寄付という性格よりも、自分たち同窓の輝かしい歴史や家族的な伝統を後輩に伝えて行くためのアイテムなんだと思うようになりました。形式的には大学に寄付ということですが、同窓会のこれからは非常に大きな意味を持っている、ただホールを利用す



るというか、寄付したら利用勝手がいいというんじゃなく、次の若い同窓に対して、同窓会と大学が一体になってつくったというシンボリックな意味もあるのではないかと。支部に行ってそういう説明をすると、話は下手なんですけども、「ああ、それならわかった」と言う人が結構多い。

膝を交えて話し合うと分かっていただけなのでしょうが全国となると時間的な制約がある、こういう会報を通して、少しでも「血脇記念ホールへの寄付という意味はなんなんだ」ということをぜひ、伝えたいというふうに思っています。

井出学長 おっしゃるように、新血脇記念ホールは、同窓生と大学教職員で作り上げたという感覚を持って頂ければありがたいと思います。その結果いつの時代でも、現役の学生には、新血脇記念ホールは、君たち先輩の同窓生の方々に建てていただいたのだ、ということ伝えていきたいですね。

佐瀬副会長 そこまで言ってもいいわけですか。同窓会がここをつくったんだと。

井出学長 ある意味ではいいのではないのでしょうか。国立の大学でも、同窓会館は同窓会が作りましたと、謳っているところが多い様です。

ですので、この新血脇記念ホールは同窓会が作りましたと言ってもいいのではないですか。同窓会の象徴として作る、だからそこに寄付をしていただきたいのです。大切な寄付金が何処に使われたのか判らないというのは困るので、そのほうが良いと考えております。

この新血脇記念ホールは同窓のもので、ご自由にお使いくださいと、あるいは、同窓会がつくったので、逆に学校に貸し出しますぐらいの気持ちがあっても良いかもしれませんね。

佐瀬副会長 私たちは考え方が少し違ってたようで、やはり大学がこっち側に貸しているような雰囲気があったんです。同窓会がつくって、それを全部というか、ある程度、まあ、運営はともかく、それを同窓会が主となって全部使って、我々がつくったんだというのを表になかなか打ち出せないような雰囲気もありました。

井出学長 まあ、その辺は色々な行き違いがあるのかもしれませんが。そのために土地代は別にして、工事費や内部の設備を全部合算して、新血脇記念ホールの建設費が約5億円ぐらいになります。この5億円は同窓生の方々に出していただいて、同窓会がつくりましたという形がいいのではないかと考えました。逆に言えば、入学式だとか卒業式は、同窓会で貸していただいて式を行っていますと、学生にも伝えていこうと思っております。

ただ、このまま半分しかご寄付が集まらなければ、同窓会がお使いになるときは使用料を取りますよというふうに、当然になってしまうわけですね。(笑)

佐瀬副会長 ありがとうございます。お話をききまして、新しい切り口で寄付の協力を進めることができます。

臼田委員長 寄附についてまとめますと、新血脇記念ホールは全国同窓が集える我々のホールをとい

うような新しい切り口で、まずは支部長に、そして会員にそのような認識を持ってもらい、寄附をしていただくよう進めていくことでよろしいでしょうか。



若手同窓との連携推進事業での大学との連携

臼田委員長 若手同窓との連携を矢崎執行部での重点課題として、昨年の評議員会において準会員制度、新進会員制度の導入が決定されました。併せて、若手のためのネットワークづくりと、大学との連携が益々大切になります。このテーマについてまず矢崎会長よりお願いします。

矢崎会長 去年の同窓会の評議員会で学生さんを「同窓会の準会員」とすることと、卒業5年目までを「新進会員」とすることが決まり、さらに大学のご理解とご協力によりお認め戴きました事に深く感謝いたしております。

臼田委員長 高野常任理事おねがいます。

高野常任理事 私もこの担当になりまして、若い先生方とも話をするのですが、やはり同窓会が身近という感覚がないんですね。昨年末に若手支援セミナーをおこなった後にアンケートをとったところ、「同窓会が何をおこなっているかよく解らない」との答えでした。また、卒業してしまうと大学

も身近ではなくなってくる。そこで、大学と同窓が身近な状態になるためにネットワーク作りを考えています。準会員と新進会員制度を認めて頂きましたので、まずは、準会員と新進会員への支援を考えています。準会員へは、例えば抜去歯もなかなか集まらないんですよ。私の診療室にも、子どもの頃からの患者さんで、東京歯科大学に入学して「抜去歯がほしい」といつてきた学生が2人いました。なんとか、支部の先生にお願いして対応しましたが、これからは各支部に若手ネットワーク担当を決めて頂き、事前に対応をお願いしていきたいと思ひます。同窓会から「ご入学おめでとう」を言わせていただいて、入学時から身近に同窓会を感じる機会を増やしたいと思ひます。

若手支援セミナーのほかに同期会開催の支援を企画しています。今、卒後10年目ぐらまで同期会をしていません。卒後10年目ぐらいの先生でしたら、「若き研究者の講演」として大学に残っている同期に講演をお願いして、講演機会を提供することも同期の励みになりますし、ネットワーク作りは結末に繋がると思ひます。また、若手の情報伝達として、Facebookなどを使っていくことも考えています。そして、近年は、卒後不安がかなり学生にあると聞

ています。卒後不安を解決するために、例えば、見学システムの構築や、開業サポートを各支部でおこなえるように若手ネットワーク担当に窓口になって頂きたいと思ひています。大学が東京に戻ることもありますので、ネットワークづくりを大学にもご協力いただいて、学生の名簿など支部長からの要請にこたえて頂きたい。身近な大学、同窓会というものを目指したいと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げます。

井出学長 先生方が今やってくださっていることの半分近くは、大学もやるべき事かもしれません。20年位前は、7割近くが同窓のご子弟だったので、大学が教えなくても親とのつながりから、血脇イズムや東京歯科大学の伝統が自然と後輩に受け継がれたのだと思ひます。以前は日常の会話で、父親が「僕もこの先生に習った」、「この教科書を使った」というような会話があったと思ひます。しかし今の学生の中で同窓のご子弟は全体の2割位しかいません。東京歯科大学の精神を伝えるという意味においては、大学だけではとても伝えきれないということもありますので、同窓会がきめ細かく在学生や若い卒業生と様々な交流を持って頂けることは、非常に良い事だと思ひます。

宮地副会長 一つ、先生にお伺ひしたいのは、ちょうど学生から同窓になるときに、今、臨床研修医制度というのがあるんですね。そのときに、東京歯科に残っている研修医はいいんですけれども、どこかに散らばってしまうと、なかなか新会員を把握しづら

そういう面では、なるだけたくさん東京歯科に残ってくれたほうが、こちらとしては助かるんですけども、一方では、他校からどんどん東京歯科の研修医として入ってくれているということもあるので、それは、できるだけそういう人もふやしたい。まあ、キャパがあるので。先生は、その辺の割合というのはどんなふうにお考えになっているのでしょうか。外の人を受け入れたほうが、東京歯科の臨床研修医というのが伸びるのか。自分たちの母校で残したほうがやりいいのか、その辺は、先生はどういうふうにお考えですか。

井出学長 これはなかなか難しく、実は研修医の費用等の問題でなかなか研修医を受け入れられないのです。逆に言えば、東京歯科大学の中の人材をきちんと指導して、しっかりと働いてもらったほうがいいのではないかとありますが、これが何とも言えないですね。都立病院や、他大学に行く人のほうが、積極的でいい人材がいる場合もあります。最近一旦外部に出た研修生が、また大学に戻れるような仕組みを作る必要が有ると感じています。また今大学で一番問題になっているのは、後継者をきちんと育てられないということです。戦略的にきちんと後継者を育てていかなければならないと思ひます。大学はバランスが大切ですから、教育、研究、診療という、このバランスが良くないといけません。殊に診療に於いては、「この教授に、あるいはこの先生に診てもらえれば絶対治る」というそのような先生を育てていかななくてははいけないと



思っております。

より良い臨床医を育てるには、同窓の先生方のご指導を頂ければと思っております。同時に同窓の先生からのご意見、ご批判をいただく必要があると思っております。

臼田委員長 そうですね。今まで血脇イズムというか、東京歯科大学という、我々卒業すると、そればかりに目が行ってしまうんですけども、これから先は、今後の東京歯科大学をきちっと評価して、それなりにその評価を大学に伝えるという関係。それがフィフティー・フィフティーの関係で、大学にとってもありがたいことになるのかもしれませんが。それと若手ネットワーク。卒業されてから、大学に残れば大学とのコンタクトがある。ところが一旦外に出てしまうと大学とのコンタクトがないというところが、若手の中でも非常に問題になってくると思うんですね。

井出学長 その意味においても水道橋に移転してくることは、同窓会とのつながりがより深くなると思っております。同窓会の先生方を日常大学で今まで以上にお見かけする機会が増え、学校の中を歩いている会長や副会長、理事の先生方が学生に声をかけたりすることもできますし、そういう意味においてもやはり水道橋なのです。

宮地副会長 学長先生の教室みたいに、教授が大学院生とか医局員に必ず支部へ入れとか、歯科医師会に入れとかって言ってくると、かなりそこで連絡もとれるようになるし、いいなと思うんですけども、いろんな講座によってなかなかだと思うんですがね。今度はで

きれば、お忙しいとは思いますが、少し手分けして医局長クラスに集まってもらい、ぜひそういうふうな教育をしてくれるようお願いする機会も設けたいと思っております。支部からの声としても新同窓会員の情報をできるだけ流してくれないかと盛んに催促されます。また大学にご足労をおかけし、大変かもしれませんがよろしくお願ひしたいのです。同窓会の明日を考えると今が重要なんです。

井出学長 暮れには同窓会大学支部総会が開催され、講座の医局長、教室の幹事が集まります。

宮地副会長 そういうところでコンタクトを、医局を含めて医局の指導者をお願いすると大分違うと思うんですね。その中で、あとは同窓会のほうでフォローするということで、大学の支部長先生1人ではそういうことはとても各講座までは目が届かないので、やっぱり医局長クラスに集まっていただき、同窓会とのパイプをつくりたいなど。

矢崎会長 学生の授業時間の邪魔になってはいけないと思っておりますが、何かのうちに同窓会の事業や活動について紹介出来ればと思っております。最近では井出先生のご配慮で種々学生さんに話す機会を作って戴き感謝しております。さらに大学広報にもその事が掲載されるようになっており、大変有り難く思っております。今後とも医局員の方々や研修医、さらに学生さんと同窓会との接する機会をおつくり戴くよう宜しくお願い申し上げます。

井出学長 矢崎先生が会長になられてから、たびたび大学にお見えになっていただいております。我々も同窓会の大切さを学生に事あるごとにアピールしております。

臼田委員長 それでは時間もそろそろ迫っておりますので、そのほか何かないようでしたら、学長との新春対談を終了させていただきます。本日は井出学長先生ありがとうございました。



重点事業へのアプローチ

現在、同窓会の各支部において最大の問題点は若手の会員が年々減少し続けている事です。そのために支部の同窓会活動に多大な支障をきたすほどとなっております。

統計的に見ても卒業年度の平成元年から10年目までの方の5割以上、さらに平成10年目からですと6割以上の方が支部の会員でなく、それとともに同窓会の会費も未納となっております。日本歯科医師会におきましても35歳の歯科医師では500名程度しか日歯の会員になっておりません。

同窓会として重要事業として事業推進部に若手ネットワーク委員会を設置し、若手の会員との連携を図るための各種企画や、事業を展開しております。今回、若手ネットワーク委員、協力委員さらに事業推進部の方々全員が、熱い情熱を持って企画・運営し、この若手支援セミナーが開催されました。以下の報告に有りますように、日本大学歯学部同窓会の協力もあり、本当に多くの若手の会員が参加され、多大な成果を得る事ができました。先の評議員会にて承認されましたように、学生を同窓会の準会員とし、さらに卒後5年目までを新進会員とし、この期間に同窓会の活動や意義についての十分な理解を得られるよう、更なる努力が必要と思っております。

東京歯科大学同窓会 会長 矢崎 秀 昭

「若手支援セミナー」報告

12月9日（日）水道橋 TDC ビルにて、日本大学歯学部のご後援をいただき、若手支援セミナーが行われました。

当日は、卒後5年目までの先生を中心に、東京歯科大学、日本大学歯学部の同窓生をはじめ、多くの大学から100名を超える若手の先生にご参加をいただきました。セミナーでは、其々の講師の先生から、これからの歯科界をリードする若い先生方へ、臨床経験を踏まえた熱いメッセージをいただき、皆、とても熱心に聞き入っていました。きっと、このセミナーを明日からの臨床に役立て、歯科界の未来を明るくものにしてくれることと思います。

若手支援セミナーの開催は、今回で3回目となりました。多くの受講者に恵まれ、開催できたことは、次の支援に繋がる足掛かりと考えております。



小幡 純会長代行
(日大)

過去に開催されたものは、学術・保険を中心に知識を提供するようなセミナーでしたが、今回の内容は若手歯科医師が必要とするであろうという情報を加味して企画いたしました。若手歯科医師が、どのように研鑽していくのか、医療という現場において生涯研修のスタートとして、何か道筋みたいなものを提供できないかが企画者サイドとしてのねらいでした。そこで、セミナー後アンケー

トにご協力いただき、企画内容の評価はもとより、今現在の若手歯科医師が何を必要としているのかを探ることといたしました。

講演された4名の講師の先生より講演要旨をいただきましたので、ご紹介いたします。また、この場ではすべてのアンケート結果をご報告することはできませんが、いくつか抜粋したものを申し上げます。

事業推進部

実力アップの学び方

鈴木 尚



研修医の皆さんは新年を迎えると、間もなく臨床歯科医師として社会に一步を踏み出すはずです。入学以来、長く続いた指導される立場からいよいよ自立することになるのです。

指導に当たってきた多くの諸先輩は、社会に通用する立派な歯科医師を目指してほしいと考えているでしょう。そんな思いで研修医の皆さんの背中をもうひと押ししたいと考えて七つの提言としてまとめました。一年間の研修成果をさらにアップさせるためのメッセージになれば嬉しく思います。

提言1. 社会人としての歯科医師になる

研修医を終えるということは社会人になることと同じです。そこには社会人としての「常識」がなければなりません。

提言2. 歯科医師としてのプライドをもつ

大学で教わった医学を正しく実践することが必要です。

提言3. 歯科医療の特徴を理解する

臨床歯科医療を実践するためには、その特徴を理解しなければなりません。そうすることによって実践するための基本が分かってくるのです。

提言4. 歯科医療の学び方を知る

自立するという意味は「生涯研修」を自らが実践す

ることです。そのためには「学びの戦略」があるはずで、それを知ることでより効率的で実のある学びができるのです。

提言5. 臨床をスムーズに進めるために

臨床を進めるためには常に患者さんの理解力を高める姿勢が必要です。そのためには病態をしっかりと伝える技術が必要です。

提言6. 臨床の多様性を理解しよう

患者さんには一人ひとり違った個性があるように、症状の訴え方もまちまちです。その症状を治療につなげるためには「患者さんの多様性」を理解しておかなければなりません。

提言7. 学びから目指すものは何か

歯科医療はまだまだ素晴らしい職業です。そのためには最小で8科目の臨床をモノにしなければなりません。その基本は何時まで経っても「錆びない臨床力の宝」なのです。

— 歯科医療はまだまだ形を変えながらも伸びる分野です。皆さんは大きな夢を持つべきでしょう。その夢を実現するには臨床を好きになる心と楽しむ力、そして尽きることのない好奇心を持たねばなりません —



医療保健のしくみと日本の歯科医療の現状



日本歯科医師会 保険医療課 社会保険部委員 相庭 常人

卒業後、まだ比較的年数が経過していない若手の先生は、正しい知識と正確なスキルの獲得を目指して日々、臨床にて研鑽しているかと思いますが、日本における歯科医療においてはそのほとんどが保険治療と言われる、いわゆる医療保険（国民皆保険制度）にて行われていることもご理解いただいていると思います。

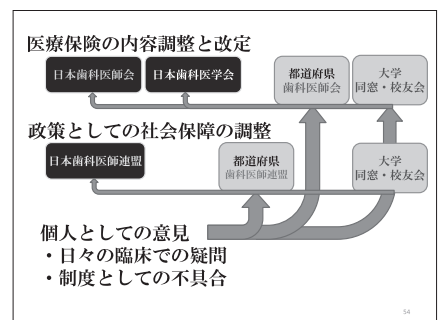
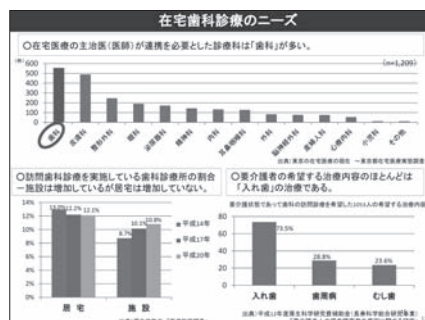
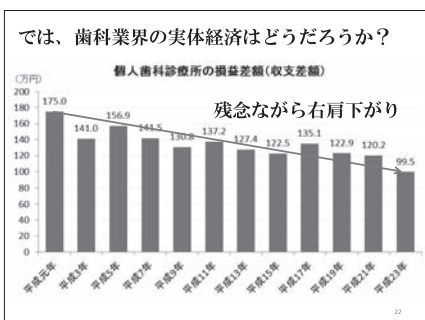
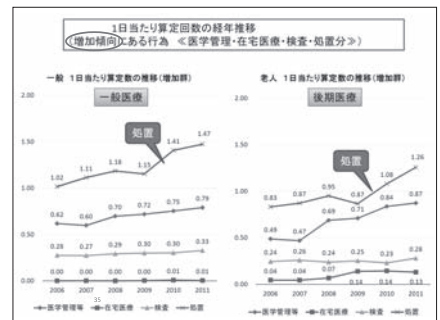
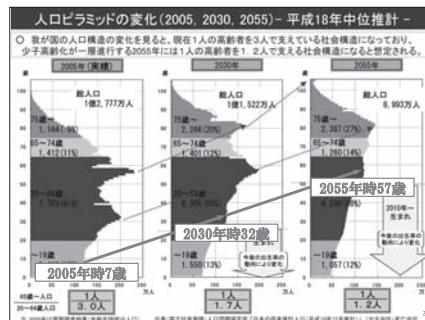
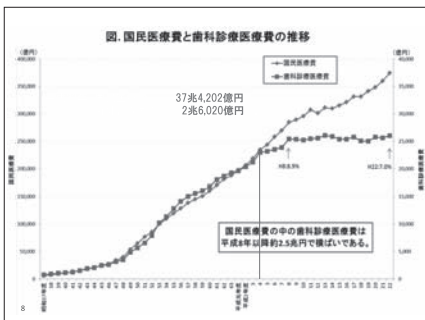
そこで、今回は、日本の医療保険制度の概略をご理解頂き、さらに日本における将来の歯科医療の展望を考察してほしいと考えました。

日本には世界と比べ秀でた医療保険制度による国民皆保険が成立していることは周知の通りであります。その制度自体がどのように構成されているかは、あまり理解されていないのではないのでしょうか。歯科医療の知識やスキルを習得しても、制度の中でうまく実施できなければ100%の能力を発揮できないでしょう。そのため、若手の先生には、その制度を正しく理解して臨床に望んでほしいことと、

また、今後の制度改正においては状況把握を的確に行い、新たに思考するための礎として欲しいと考えております。

更に、今後起こりうる超高齢化社会に対しても漫然と過ごして待つのではなく、歯科界に生じる環境を予想し、それに対して何をすべきかを考えるヒントに繋がればと思っております。迫り来る超高齢化社会において、日本における社会保障制度をより良いものにするため、また、個人の意見を国に伝えるためにも歯科医師会や同窓会を利用しましょう！

概略として、国民医療費における保険料の負担割合、診療報酬における負担金の流れ、保険者の種類、現在の歯科医業の実態、人口動態における今後の歯科界への影響、世界各国との比較等により構成されております。詳しい講演内容は同窓会 HP 保険委員会のページにPDFがございますのでご一読いただければ幸いです。（以下一部抜粋）



海外歯科事情と留学



菅野 文雄

この度は、貴同窓会、若手支援セミナーにお招きいただきまして、ありがとうございます。お話をいただいた時に“若手支援”という言葉に若干、抵抗はあったものの、最近いつの間にか“最近の若い人は…”と言われる立場から、言う立場に変わってきたことを改めて実感した次第です。私が母校を卒業した1987年は、バブル絶頂期で現在の社会、経済情勢とは異なり、歯科界の状況も大学の教育現場や研修システムのことも含めて大きな違いがあると思います。また個々のおかれている環境や適性などによっても歯科大卒業後の選択肢は多岐にわたると思います。当然正解はない問題なのですが、以前から“卒後5年ぐらいの経験が歯科医としての基本を作る”とよく言われます。“三つ子の魂百まで”的な話だと思いますが、個人的には同感するところがあります。少し前置きが長くなりましたので、本題に移りたいと思います。

留学といっても目的や場所、期間によってその形態は多岐にわたることは想像できると思います。その中で米国で日本の歯科医師免許のみでこの分野で臨床ができるということになるとポストグラデュエートのプログラムに所属するのが正統派と言えると思います。ポストグラデュエートは通常、大学院と訳されますがいわゆる日本の大学の、主に博士号の習得を目的とする大学院とは異なったものと理解してください。この中には専門医（口腔外科を除く）の資格を目的とするコースや短いものでは日本のGPの研修医と同じようなコースがあります。このようなコースは通常1年以上の期間がかかりますが、もし実際に患者さんの治療に当たらなくてもよいというのであれば、正規のコースだけではなく、Visiting Scholarを受け付けている場所もあります。また留学という言葉が当てはまるかどうかは微妙ですが、数週間程度のプログラムは歯科雑誌を

くれば、最近では西海岸の大学を中心に数多くのプログラムが用意されています。米国以外でもスウェーデンのイエテボリ大学などを卒業された先生がたも活躍されています。

留学を経験すると、まずよく聞かれるのが“留学されてどうでした？”という質問です。あまりにもアバウトすぎる問いかけなので返答に困るのですが、おそらく留学をして後悔されている先生はいらっしゃらないと思います。アカデミックな面から考えると、現時点で留学しなければ習得できない技術はないと思います。裏を返せば国内のレベルが海外に比べ劣ってはいないということです。つまりわざわざ留学する必要はないという極論に達します。では今留学を勧めないかという、少しでも興味があって、時間的、経済的な状況が許されるならば、やはりお勧めします。これは留学のあたりまえの一般論になってしまうのですが、客観的に物事を見直すことができるからです。”日本の常識が世界の非常識“のようなこともあるでしょうし、私たちの分野だけではなく多くの面で日本の良いところ悪いところが見えてきます。このことが帰国後にどれだけの価値があるかといわれると、人生の哲学的な話になるのでやめておきますが、とても貴重な経験だと思います。

もうひとつメッセージを送るとすれば、英語を勉強しましょうということです。これは留学するしないに関わらず、将来必ず役に立つと思います。今必要ないからといって、今後必要にならないとは言いきれません。最近では国内一般企業でも英語でコミュニケーションをとろうという試みもされています。賛否両論あるとは思いますが、高校生の頃から英語コンプレックスだった私のような者があえて言うのですから信じていただければ幸いです。

認定医・専門医とは

東京歯科大学口腔健康臨床学講座 洪川義宏



臨床に関する知識と技術の向上を図るには、スタディグループやセミナー、講習会などに参加する方法がありますが、学会が認定する専門医資格に挑戦することも有効な手段の1つです。学会認定専門医とは、医学、歯学の高度化、専門化に伴い、その診療科や分野において高度な知識や技量、経験を持つ医師・歯科医師のことで、学会認定医、学会専門医、学会指導医からなります。一般的に、学会認定医は各学会が認定した研修施設（指定病院）での研修期間や学会、研修会の出席回数を指定したうえで試験（主に筆記試験や口頭試問）を行います。学会専門医は認定医よりさらに高度な知識や技量、経験を持つ学会が認定した医師・歯科医師で、学会によっては専門医資格を広告に掲載できるものがあります（日本口腔外科学会、日本歯周病学会、日本小児歯科学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科放射線学会）。さらに、学会指導医とは認定医や専門医などを指導する立場にある学会が認定した医師・歯科医師をいいます。学会認定専門医を取得するためには、まず、自分の興味ある分野の関連学会ホームページから情報を収集します。歯科に関する学会は、「日本歯科医学会」のホームページから調べることができます。日本歯科医学会とは、日本におけ

る歯科系学術団体の中核をなす組織で、各分野間を取りまとめる総合的な役割を持ち、現在、21の専門分科会（日本口腔外科学会、日本歯周病学会など）と18の認定分科会（日本レーザー歯学会、日本歯科審美学会など）から成り立っています。各学会のホームページには、学会認定専門医取得に関して、学会会員歴、研修施設、研修単位、試験方法、ケースプレゼンテーションの有無、論文や学会発表などの業績数など、詳細について調べることができます。また、認定医取得後は資格を維持するための更新制度（一般的に5年ごと）が設けられており、更新には学術大会参加や研修会参加など必要な単位取得が義務付けられています。

以上のように、学会認定専門医を取得することは、自分の得意な専門分野を持ち、その取得過程で必要な視覚資料（口腔内写真、エックス線写真など）を揃え、症例の概要（診査、診断、病因、治療計画、治療法の選択、治療経過など）をまとめたりすることで問題解決能力やケースプレゼンテーションのトレーニングになります。そして、その経験が臨床に関する知識と技術の向上を図る有効な機会となるだけでなく、資格取得後の臨床を続けていく上での貴重な財産となることでしょう。



関川嘉昭先生



加藤賢祐先生



藤巻伊佐夫先生（日大）



藤川謙次先生（日大）

若手支援セミナー アンケート結果をふまえて ～企画サイドから

①企画内容は若手歯科医師のニーズにそっていたか講演セミナーというよりも情報セミナーでしたので、その要望にマッチするかが問題でした。受講生のおよそ9割が「良い」との回答を得たことは、同窓会としても新しいセミナーの形が模索できたことになりました。

②講演内容について

各講師の先生方には、多少無理を申し上げて若手支援という題目を掲げて構成をお願いしました。「臨床医としてどのように学ぶか」歯科医師としての方向性を示す内容は、やはり興味が湧き評価を得たようです。また、歯科界の流れをすでに察知しているようで、半数以上の受講生が「認定医・専門医」について知りたがっていたようです。

③今後の若手支援の内容について

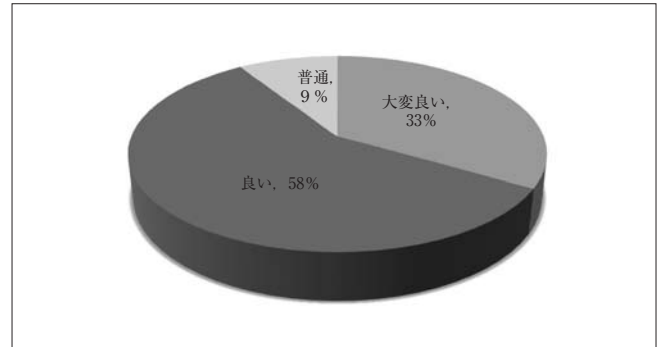
「学術情報」が最も多い回答ではないかと予想しておりましたが、意外にも「臨床見学」でした。いったん臨床に出てしまいますと、時間的制約から他の診療を見る機会や人脈に恵まれないとなかなか見学ができないという状況かと思われます。同窓会としては、会員のネットワークを通じてその要望に応えるべく模索中です。

④同窓会事業について

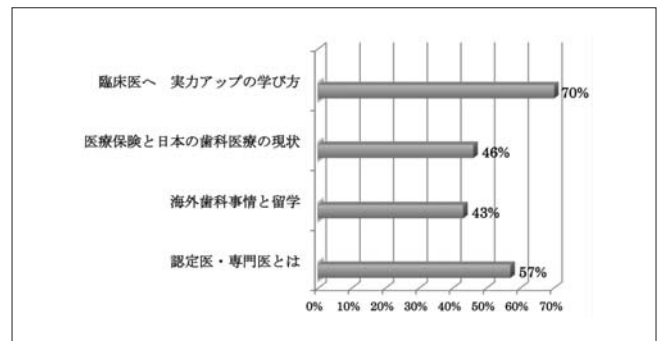
若手の会員がどのように同窓会を捉えているかを知ることが、今後の事業展開に繋がります。3割の方が「よく分からない」との回答をまずは無くすべきで、同窓会の事業とその意義を伝えていき、その上で評価してもらえるよう努力して行きたいと思っております。

若手会員と同窓会との接点は、どうしても学術的な内容でしか伝えづらいのかも知れません。しかしながら本来、会員の親睦と情報交換、人脈にあり。若手ネットワーク委員会にご意見お待ちしております。

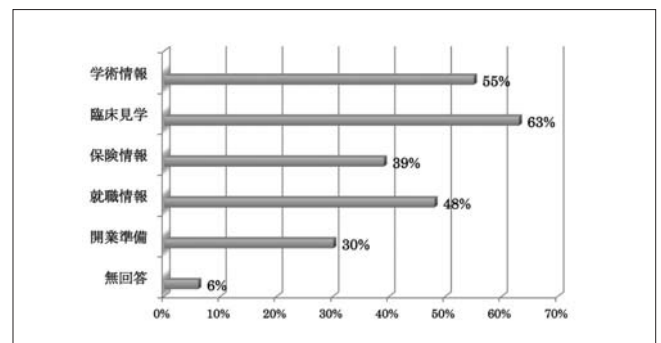
(若手ネットワーク委員会 木暮隆司)



①今回の若手歯科医師支援の企画内容について、どう思いましたか。

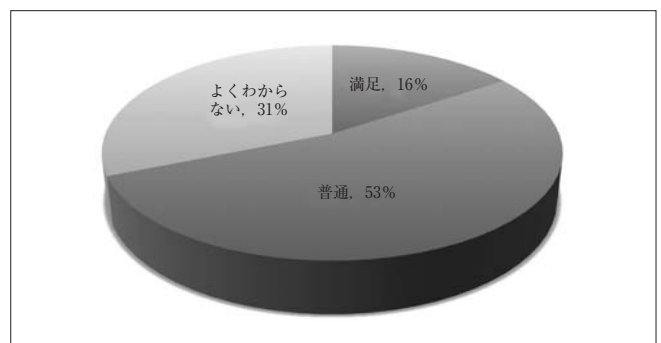


②あなたにとって興味深かった講演は、どの内容でしたか。(複数回答可)



③若手歯科医師のためにいろいろな情報提供や支援を企画しております。

上記のうち、興味のある項目はどれですか。(複数回答可)



④現在の同窓会事業についてどう思いますか。

会 務

会務アラカルト

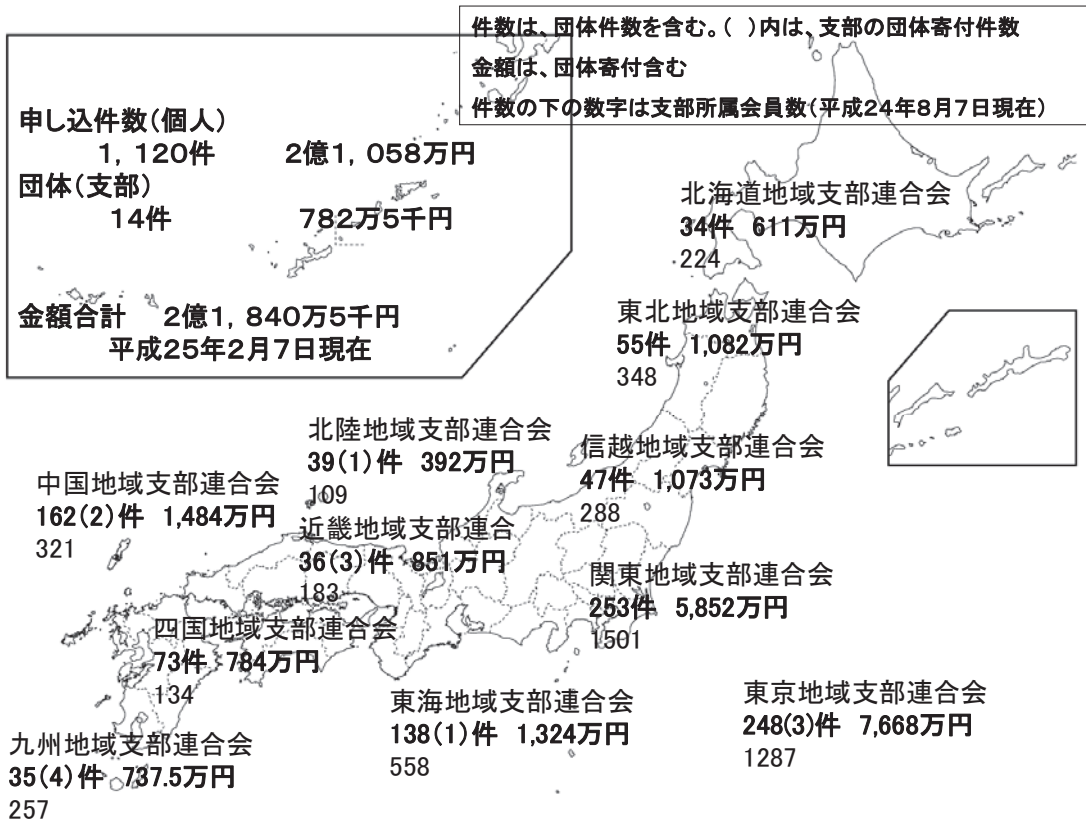
母校と同窓との象徴 新血協記念ホールを我々の手で

矢崎執行部も2年目を迎えました。今年は母校にとって、120年の歴史の中、水道橋移転をという大事業を控えているなど、執行部としては全国同窓の先頭にたつて応援をしてゆきたいと考えております。

そこでなんとか目標を達成したいのが新血協記念ホール建設への同窓からの協力です。目標5億円、一人でも多くの同窓の協力をいただくことを目指してまいりました。現在2億円、1000人を超える会員からの協力申し込みがあり

ました。地域支部連合会ごとに協力金額をご提示させていただいておりますが、地域によっては会員数が少ないにもかかわらず多大なるご協力をいただいております。誠にありがとうございます。歯科界、歯科大学を取り巻く環境が今後とも大きく変わってゆきます。そんな中、東京歯科大学同窓会は、母校と強い連携のもと新しい時代にポジティブにかかわってまいります。母校との、新しい時代にむけたより強い連携こそがそのための強力な推進力になり、さ

らに東京歯科大学の未来の同窓たちにその志が受け継がれてゆくのです。本年度から母校在校生も準会員として同窓会に関わってきます。これから会員の先生方一人一人にとって大学はますます身近になってまいります。母校と同窓とが気持ちを一つにすること、そして母校発展を願う先生方におかれましては、お一人お一人の心のメッセージを新血協記念ホールの建設のための寄付協力という目に見える形で示していただくよう心からお願いいたします。



同窓会創立120周年にむかって

明治28年6月16日高山歯科医学院の第一回卒業式が行われ、その日の午後に血脇守之助先生の思いで高輪萬清楼にて高山歯科医学院院友会が開催されました。それが東京歯科大学同窓会の始まりです。それから118年が経ち今日を迎えています。2年後の2015年に創立120周年を迎え、同窓会では記念事業を行うことを決定しました。そのための準備として東京歯科大学同窓会創立120周年記念事業準備委員会を立ち上げることになりました。

発足当時の会則を見てみますと、第一条に「本会は歯科医学上の知識を交換し相互の友誼親睦を篤くして歯科の品位を高むるにあり」とし、第2条に「本会の目的を達せんが為に雑誌を発行し且集会を開く」とあります。この雑誌とは“歯科医学叢談”というもので院友会の機関誌として発行され、明治33年に歯科学報に改題されました。皆さんご存知の歯科学報は同窓会の機関紙として始まったのでした。さて、高山先生のご挨拶では「諸君の卒業して無暗に開業を急がるるは諸君の為甚だ不得策なれば卒業後も尚学術実地共に研究を重ねられんこと小生の深く希望するところなり」とあるように、当時院友会を真面目な歯科医師の研修の場として発展させることを考えており、決して祭祀的喧ぎに墮すべきでないを戒めておりました。その後血脇先生に受け継がれ、高山歯科医学院から東京歯科大学へと変わり“院友

会”も“歯科協会”となりましたが、やはりその時の会則第一条では、「本会は歯科医学及時事問題の研究を以て目的とす」とあり、現在の「本会は、会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することをもって目的とする。」とはニュアンスがだいぶ違います。その背景は、血脇守之助伝にある明治33年2月12日東京歯科大学の開校式での血脇院長の演説から垣間見ることが出来ます。途中から抜き書きですが、「…世間を見ますると、先ず大抵の人は殆ど眼中に於いてない、従って歯牙を治療する所の歯医者と言ふものは、やはり彼の香具師がするところの一種の賤業であると見放している者が割合に多いのであります。…歯科医学の程度が、今日未だに低くして且つ幼稚の時代にあり、又実力のある歯科医が未だ世の中に現れて来ない。…歯科医学と言ふものは、絶対的にさう云う位置において然るべきものであろうか、或いは歯科医は何時も世間から冷遇せられて居って然るべきものであろうか、私は断じて其不可なることを信じて居ります。…」とあります。3年後の明治36年には大日本歯科医会の立ち上げに、そしてさらにその3年後の明治39年には歯科医師法（旧）制定をとうし歯科医師の地位を確立するなど、坂の上の雲に向かって走り続けた若き先人たちの熱い血と汗を当時の会則から感じとるところであります。こんな東京歯科大学同窓会の



血脇守之助傳

歴史を眺めながら、準備を始めるのも楽しいものです。企画など、ご意見ありましたら情報ネットでも結構ですのでお寄せください。

第一回会務検討特別委員会が開催

昨年度は会長監事の選出のための選挙規則について検討いただき、作成された選挙規則案をもとに評議員会においてはいろいろなご意見をいただき、大きく前進することができました。それ以外にも、若手同窓との連携推進、名誉会長について、同窓会機構改革について、総会についてと多くの課題について答申をいただきました。新年度の執行からスタートできるものも多くあり、感謝にたえません。選挙制度、一県一評議員の経過措置、総会の廃止については続けて検討いただき、一つの案として評議員会に提案してゆく予定です。これら山積した問題の検討をお願いしておりますが、更に本年度の課題としていくつか理事会であげられています。中川杉生委員長、大井誠一副委員長、そして佐藤 亨委員、鳩貝尚志委員、山 滋委員、池田嘉徳委員、佐藤



会務検討特別委員会

剛委員には今後の同窓会の発展のためご尽力をお願いいたしました。

理事会からのニュース

本年度に入り第一回理事会、第一回常任理事会が開催され、新しい課題が提案されました。今後会務検討特別委員会、各地域支部連合会の支部長会などからの意見をうかがって最終的な形として11月17日（日）新血脇記念ホール開催の評議員会にてご協議いただければと思っております。

（過年度分本部諸会費未払い分請求の一部中止について）

新しい課題としては、過年度分未払い徴収の一部中止が出されています。本部会費の未払い分がたまりそれを理由に支部に入らないというケースが多く、徳政令のようなものを発令して過年度分の未払いをゼロにしてはとの提案が一年前の評議員会でありましたが、財政上全部ゼロというのは難しいので、ある程度離れた過去の年度で財政上の影響が少ない年度以前

の分の請求を止めたらとの意見が多く出ています。一方で過年度分の支払い状況の周知が徹底されていなかった経緯がありますので、このあたりも改善し会費納入率のアップを目指そうという意見も出ています。

（基金に関連して）

血脇記念基金、同窓会基金について見直しの動きがあります。血脇記念基金は、大正14年役員会において血脇賞を出すことが決定し、そのための基金として血脇賞基金が誕生しました。血脇賞は昭和2年より昭和36年まで26回授与されましたが、その後なくなり昭和46年から血脇記念基金とあらため現在に至っております。また、同窓会基金は、昭和29年同窓会創立60周年事業の中の記念事業として提案されており、当時の榎本会頭挨拶の中では「母校並びに奥村学長に対しわれら同窓一門が側面協力の微衷を表現する一助となるべきかと愚考いたします」とあり、目標を500万円とし会員各位に寄付を募ったところから端を発

しています。現状に合わせそれなりの目的を整え、新たな内規づくりを始めるべきであるとの意見が出され、まず過去の資料調べにはいりました。

事業推進部のワークショップが開催

“事業推進部全員集合”の掛け声のもと、1月10日（木）、2月7日（木）の二日間、事業推進部のワークショップが開催されました。事業推進部は、学術委員会、保険委員会、大学連携委員会、シンクタンク委員会、若手ネットワーク委員会と5つの委員会から構成されています。委員そして関係理事もふくめ総勢55人の面々が6つのグループに分かれ、3つのテーマ『同窓会を活性化させるための事業展開とその方向性』、『事業推進部の機構構成の問題点』、『同窓会支部未加入対策と会費のあり方』が割り振られました。各グループ9人くらいに分かれ、あらかじめ指名しておいたリーダー、レコーダー、レポーター役をお互い確認した後、リーダーの進行でスタートしました。まず、グループに指定された1つの課題について、各自の意見を約5センチ四方のポストイットにマジックで書き込みます。それを集め模造紙のうえに似た意見ごとに集め、説明をしてもらいながらその“意見の集まり”に見出しを付けます。そうすると模造紙のうえにポストイットの集まりが海に浮かぶいくつか島のように意見がまとめられていきます。所謂KJ法を利用したもので、最後に各島の重要度と緊急度が二次元の図としてあ



事業推進部 WS1日目

らわしてゆきます。

翌月2月7日、2回目のワークショップが開催され、各グループの発表とディスカッションが行われました。

「支部未加入対策」では、“同窓会組織に入る必要性がないと感じているのでは”という問題となる意識変化の指摘、そしてそれに対して同窓会組織の宣伝、東京歯

科大学同窓としてのプライドに訴えたらとの提案、カレッジリング、OB 東歯祭など楽しいアイデアも登場したり、また大学を好きになるよう、同窓会が大学を支えている認識を広めればと奥深い意見もだされました。“同窓会をより活性化してより知ってもらう”，そのためにはワークショップに集まった同窓会活動を愛して

いる若い同窓の先生方の気持ちと意見を尊重していくことがとっても大切ですし、さらには各支部で活躍されている先生方からの声こそが同窓会に対する意識変容への大きなエネルギーとなろうと強く感じました。この詳しい内容については、同窓会報6月号に報告する予定ですのでご期待ください。



事業推進部 WS2日目

理事会のうごき

第1回理事会

平成25年1月12日（土）午後2時30分
於 特別会議室
出席 30名
議長 矢崎会長

会長挨拶

明けましておめでとうございます。本執行部も2年目に入り、理事・役員、事務局各位のご協力により、順調に推移していることに心から感謝する。

本年は母校の水道橋移転が行われる年であり、また政権も交代した重要な年となる。しかしながら少子高齢化、国際問題、震災復興等の問題をはらんだ、厳しい年となることも予想される。

歯科界においても大学間の熾烈な競争が繰り広げられている。同窓会としてはこれまで通り、母校を歯学の雄として、支援を継続していく予定である。ただ移転に対する寄付活動が現状では厳しい状況にあるため、これまで以上の取り組みをお願いする。

昨年、各支部を回らせて頂いたが、各支部ではそれぞれに活発な活動が繰り広げられている。支部の活動無くして本部は成り立たないものと、感謝申し上げる。

昨年、重点的に取り組んだ若手連携が少しずつ効果を現し始めている。引き続き事業を進めていきたい。再来年には同窓会120周年を迎えるが、本年は同窓会改革の一つの区切りとなるよう協力をお願いする。

黙 禱

横浜北部支部・大久保公晴氏はじめ19名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

会務報告ならびに承認

1) 平成24年12月12日から平成25年12月21日までの日程を報告。

2) 各部報告

(1) 総務・厚生部：①支部長交代について8件報告。②支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について7件報告。③逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告。④平成25年度高齢会員該当者について報告。⑤平成25年度共済負担金免除会員該当者について報告。⑥平成24年度評議員会報告。⑦厚生委員会報告。⑧共済負担金納入免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑨会費、共済負担金納入免除願いが1件提出され、受理した旨の報告。⑩ゴルフ大会委員会報告。⑪母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑫情報ネットワーク推進会議報告。⑬会務検討特別委員会報告。⑭東日本大震災対策部会報告。

(2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について3件報告。②平成24年度12月31日現在執行調べについて説明、報告。③評議員会・定時総会経費について説明、報告。

(3) 渉外部：①渉外委員会報告。

(4) 広報部：①広報委員会報告。

(5) 事業推進部：①事業推進部全体委員会、企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC 卒後研修セミナー2013について報告。④保険委員会報告。⑤大学連携委員会報告。⑥シンクタンク委員会報告。⑦若手ネットワーク委員会報告。

以上の会務報告について、全て承認。

各地域選出理事報告

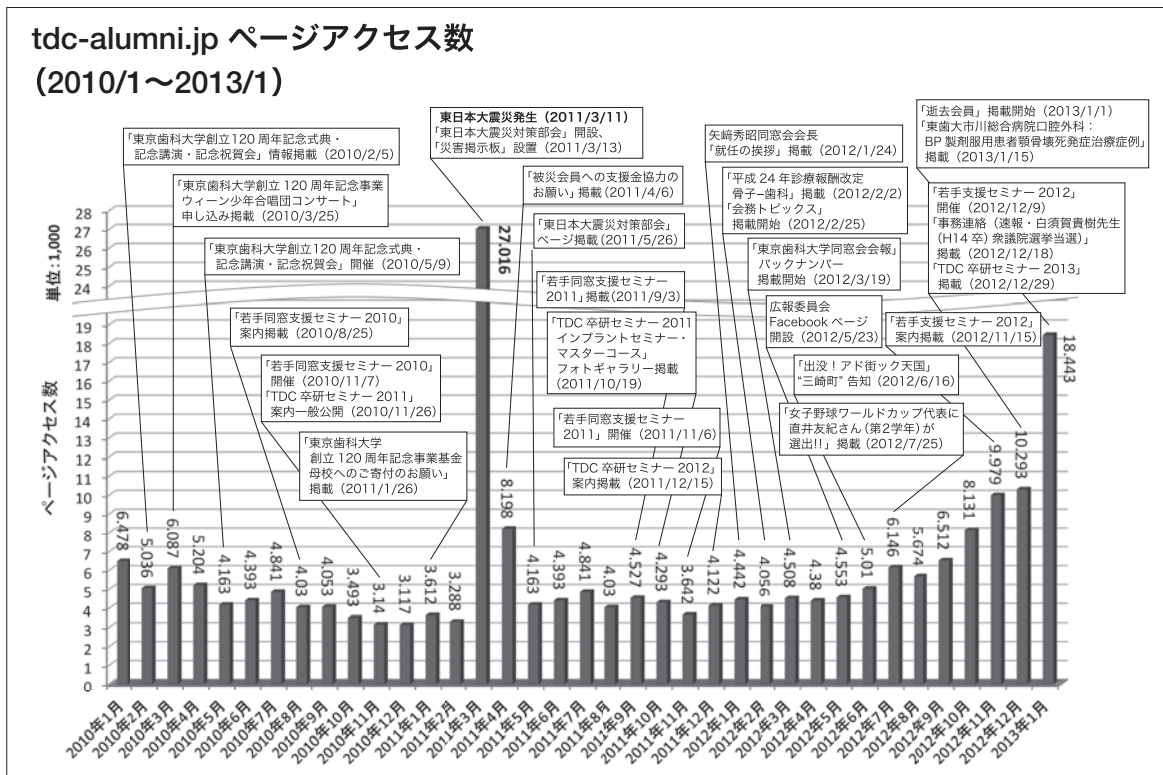
(1) 北海道・佐藤理事：①昨年12月に震災に対する支援金を送付した旨の報告。②連合会のあり方について検討会を立ち上げ、答申書がほぼ出来上がった旨の報告。

(2) 東北・高橋理事：地域の活動について書面にて報告。

(3) 東京・早速理事：新年交歓会についてお知らせ。

協議事項

- (1) 母校創立120周年記念事業募金協力推進対策についてそれぞれの具体案を検討した上で承認。
- (2) 白須賀貴樹先生を参与に委嘱する提案を承認。
- (3) 本部諸会費の過年度分未払い金の徴収を一部中止する提案に対して承認。今後継続審議とし理事会において適用年度ほか意見をとりまとめ、会務検討特別委員会に諮問する。
- (4) 血脇記念基金および同窓会基金の内規を見直す提案に対して承認。今後検討事項とし理事会において過去の資料を整理し、方針を取りまとめた上で会務検討特別委員会に諮問する。
- (5) 同窓会創立120周年にむけて記念事業準備委員会を設置し、記念事業の内容・予算・スケジュールの立案を図ることが提案され、承認。委員については会長一任。
- (6) 平成26年度の会員名簿発行をめざし、会員管理と名簿作成のための委員会設置が提案され、承認。委員については会長一任。
- (7) 支部未加入者の本部会費徴収時の地域支部連合会会費等の納入義務を定める施行細則第4条について見直しの提案があり、承認。今後継続審議とし具体的な改正案を協議する。
- (8) 評議員会協議題について継続審議とし意見の集約を図ったうえ会務検討特別委員会に諮問し、また、各地域連合会支部長会でヒヤリングを行うこととする。
- (9) 大学病院診療録指導委員会委員推薦依頼に対する人選について、会長一任とする。
- (10) 本年度インプラントセミナーマスターコースの大学移転に伴う諸般の理由による中止の確認と、トライアルとしての基本コースを開催する旨の提案があり、承認。
- (11) 各支部若手ネットワーク担当への依頼内容について、承認。
- (12) 共済制度の今後について継続審議とすることを承認。



東京歯科大学同窓会ホームページにおけるアクセス数の状況（1ヶ月単位）
 グラフ真ん中の大きく突出している月は、2011年3月の東日本大震災が起きた月です。この時に震災掲示板が設けられて、被災地から生の声をお届けしました。その後、通常の数値に戻るものの、2012年5月からSNSのFacebookと連動したページを作成したことにより、年末にかけて大きなアクセス数の伸びを記録しました。広報委員会では4月に同窓会ホームページのリニューアルを予定しております。どうぞ、ご期待下さい。

東日本大震災対策部会

大震災から2年

あれから2年を迎えました。平成23年3月11日午後2時46分、観測史上最大の地震が発生し、これにより大津波そして原発事故により日本のみならず各国にも大きな影響を与えました。東京歯科大学同窓会員も多くの方が被災し、その範囲は東北地域支部連合会から関東地域支部連合会にいたる広域でしかも深刻な被害をもたらしました。

当時大山執行部では、東京歯科大学同窓会東日本大震災対策部会を設置し、ホームページには「災害情報用掲示板」をおき、全国同窓が情報の交換を行いました。そして「歯ブラシなど口腔衛生管理用品の提供のお願い」により多くの先生方からご支援をいただきました。そして「支援金窓口」を開設し、平成25年2月現在で振込件数343件、振込金額18,047,913円のご支援をいただきました。平成23年度には第1回支援金を6～7月に総額950万円、第2回支援金を10月に500万円、平成24年には第3回支援金を3月に260万円、**第4回支援金**を12月に80万円支援させていただきました。**2月8日**現在の通帳残高**182,163円**であり、窓口は開いております。

矢崎執行部では大山執行部からの対策部会を継続し、その基本方針として

- 1) 被災県同窓、支部との情報交換
- 2) 同窓会報に情報掲載
- 3) 支援金

を打ち出しております。

決して終わっていない復旧・復興、そして今でもつづく福島悲しい状況、帰れないつらさ、おびえる放射能の恐怖などなど考えますと、今後とも気持ちを新たにしてゆく必要性を感じます。本号では福島県双葉町から福井県に移らざる得ない状況にある川崎良輔先生（昭和48年卒）を応援に訪れた同胞からの原稿をお届けします。

(参考)

第1回支援金支給（平成23年6～7月）	合計950万円
内訳	
特別支援金（個人に対して6件）	合計340万円
一般支援金（岩手、宮城、福島、茨城、千葉5県支部に対して）	合計610万円
第2回支援金支給（平成23年10月）	合計500万円
宮城、福島、茨城3県支部に対して	
第3回支援金支給（平成24年3月）	合計260万円
宮城、福島、茨城3県支部に対して	
第4回支援金支給（平成24年12月）	合計80万円
東北地域支部連合会に対して	



川崎良輔君 訪問記

山内幸司 (昭和48年卒)

去る11月24日、シチヤ会を代表して根岸康雄君、平尾文昭君、林量一君、近藤保君と私の5人は昨年の福島第一原発の事故で当時、双葉町で開業していて被災に遭い現在は福井県に避難している川崎君を訪ねに行った。羽田空港に集合し、午後1時発のフライトにて一路、小松空港に向かった。

小松空港では、川崎良輔君本人と福井県の支部長でもあり、今回の世話役の一人でもある伊藤透君が出迎えてくれた。当日は連休の谷間の影響で空港の駐車場は満杯であったので挨拶もそこそこにして2台の車に分乗し、本日の宿泊を予定している“あわら温泉”の旅館に向かった。高速の途中のパーキングエリアに寄り、あらためて挨拶をし、何年ぶりかの再会を祝した。

川崎君はジャージー姿の気軽な服装で「良く来てくれた、有り難う」といって明るく、元気そうであったので一同まずはひと安心をした。折角、東京から来てくれたのだからと二人は近郊の観光案内をしてくれた。

車中から見る紅葉はとてすばらしく、日本海に沈む夕日は絶景であった。時間の関係で暗闇の中の「東尋坊」であったがそれはそれで幻想的であった。彼が言うには、この地に来て改めて経験したのは、太陽は海からではなく山か



川崎良輔君と伊藤透君の2人が私たち一行を小松空港まで出迎えてくれた。そのときの途中休憩タイムの写真。向かって左から根岸君、近藤君、林君、少し後ろに小生、そして川崎君、平尾君、伊藤君。



旅館までの途中越前海岸見学。タイミングよく夕日が沈むシャッターチャンス。

ら登り、山ではなく海に沈むという事だったそうである。今、彼は日本の東の端から移り、反対側の西の端で生活をしているのであ

る。夕方の6時頃には、本日宿泊する「八木旅館」に無事到着した。今回の訪問では嬉しいことに同地



語る川崎君と林君

区あるいは近県から三宅史丈君、宮本宣良君、早津良和君らも参加して総勢10名の賑やかなそして和やかな宴会が始まった。川崎君の話 요약すると福島原発から約3キロの場所で開業をしていた彼は被災後、着の身着のまま家族と一緒に近県の各地を転々とし、奥様の知人のお世話で、福井の三国町の市営住宅に逃れ、現在は坂井市の福島県が借り上げた住宅に住んでいるということである。双葉郡の歯科医師会の会員は当時30数名いたが、現在は沖縄から北海道まで散らばっていて、彼は郷里から4番目に遠いところで生活していると話していた。仕事は我々が宿泊している旅館から歩いて数分のところにある歯科医院で朝と夜の時間帯だけ診療していて、仲間の半数近くはまだ仕事をしていないそうである。自分はまだ幸運の方だと言っていた。また、奥様は同郷人の為に精力的に活動していて、福井県には約500世帯が避難生活をしているそうであるが、奥様が中心になり東電に訴訟を起こすそうである。

あえて、今回の災難で何か良かったことがあるかとの問いに彼は、以前より家族の絆が深まったそうである。その日は奥様は所用があり、会えなかったのが残念で



北陸3県の友人たち（前列左、宮本宣良君、三宅史丈君、前列右、早津良和君）も集まり、集合写真。おいしい越前ガニを食しながら深夜遅くまで話し込んだ。



翌朝旅館まえで集合写真。川崎君、伊藤 透君、早津君たちが小松空港まで送ってくれた。

あった。

この歳になり故郷があるのにもう戻れないという悲壮感や深い喪失感是我々には想像出来ないものがある。ようやく今年の春頃から気持ちの整理ができ前向きに努力しようと考えられるようになったそうである。子供達も不慣れな土地でバイトをしていて皆、一所懸命に働いているようだ。

翌朝、朝早く迎えに来てくれて空港までわざわざ送ってもらった。

来年のクラス会での再会を約束し、もう当然、頑張っているのに人々から何十回と言われたであろう「元気で頑張ってね！」の言葉を心に眩いて、東京への帰途に着いた。

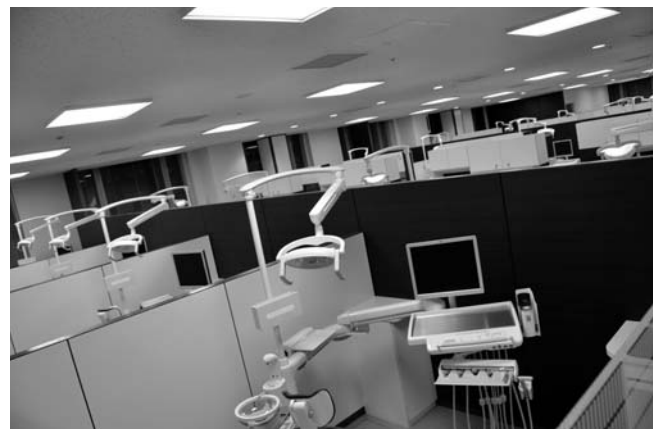
母校だより

水道橋病院高度歯科医療センター 保存科・補綴科完成式

水道橋病院3階の旧総合歯科第1・2診療室の改修工事が完了し、「高度歯科医療センター 保存科・補綴科」として生まれ変わった。完成を記念して、平成25年1月16日(水)17時30分よりテープカットが行われた。テープカットは、金子 譲理事長，井出吉信

学長，一戸達也水道橋病院長，矢崎秀昭同窓会長および長田電機工業株式会社の長田康司社長の5名によって行われた。金子理事長は、「高度歯科医療センターという名称にふさわしい，より高度かつ質の高い歯科医療を期待している。多くの患者さんにご満足いた

だけるよう，スタッフも気持ちを新たにして，充実した診療を展開していただきたい。」と挨拶した。当診療室は今後さらに準備を進め，2階の総合診療室と共に保存系補綴系の一般診療を中心に，先進的な医療を提供する予定である。



保 険

取下げ請求及び再審査請求方法等について

1 取下げ請求

レセプト提出後に記載誤り等に気づいた場合は取下げ請求依頼を行うことにより正しい請求に修正することができます。

2 再審査請求

1次審査、再審査、突合点検又は突合再審査の結果査定になった場合で、審査結果に疑義が生じた場合は、医療機関から再審査請求ができます。ただし病名の欠落・記載誤り等による減点査定分は再審査請求の対象になりませんのでご注意ください。

再審査・取下げ請求は対象となるレセプトそれぞれ1件ごとに依頼書を1枚作成し、支払基金又は国保連合会へ送付します（依頼書の書式は社保と国保で若干異なります）。

再審査請求の場合は再審査請求書の8「減点点数（金額）」欄、「減点事由及び箇所」欄及び「減点内容」欄に1次審査の結果に対する再審査請求の場合は増減点連絡書の記載内容を、突合点検又は突合再審査の結果に対する再審査請求の場合は突合点検調整額通知票又は突合点検調整額通知票【再審査】の記載内容を、保険者からの再審査請求の結果に対する再審査請求の場合は再審査等支払調整額通知票の記載内容を、それぞれの項目ごとに記入してください。

なお、支払基金に対して再審査請求を行う場合は再審査等請求書に当初請求と同一内容レセプトの写（レセプト上部余白に「写」と表示）の添付について協力要請がなされていますのでご留意願います。

（※国保については国保連合会に確認してください）

3 再審査等請求書の入手先

- 1 各地区歯科医師会 事務局
- 2 支払基金各支部・都道府県国保連合会への電話連絡
- 3 支払基金・国保連合会ホームページからのダウンロード

支払基金本部 http://www.ssk.or.jp/yoshiki/yoshiki_06.html

国保連合会中央会 <http://www.kokuho.or.jp/link/index.html> から各支部のホームページをたどって下さい。

1 取下げ請求について

レセプト提出後に記載漏れや記載誤りを見つけた場合は、査定等になる前にできるだけ早く、取下げ請求をしましょう。

レセプトが審査機関にある場合は原則、診療翌月に返戻されますが、保険者に請求している場合は返戻されるまでに約3ヶ月～6ヶ月かかります。

なお、診療翌月でも月末等で処理が進んでいる場合は当月の返戻が困難なため保険者に請求している場合と同様、約3ヶ月～6ヶ月かかりますのでご注意ください。

取下げ請求を行い、返戻されたレセプトは、そのレセプトを修正し「月遅れ請求」として再提出します。

支払基金では電子レセプトの1次審査で過去6ヶ月分のレセプトデータを蓄積しての縦覧点検が始まっています。縦覧点検でレセプトが返戻された場合、それ以前のレセプトを医療機関が取下げ請求をして修正し、正しいレセプトで再提出が必要なケースも多くあります。

例えば、

・歯周精密検査の算定の無い歯周外科手術の算定

返戻付せんには「縦覧点検より、当月以前に歯周精密検査の算定がありません。当月での歯周外科手術の算定はいかがでしょうか。」等の理由で当該月分のレセプトのみが返戻されます。医療機関でカルテを確認し、歯周外科手術前の歯周精密検査が算定漏れでしたら、検査をした月のレセプトを取下げ請求し、歯周精密検査を追加修正して正しいレセプトの再提出を行ってください。

・スケーリングの算定がないP基処の算定

返戻付せんには「縦覧点検より、当月および以前にスケーリングの算定がありません。当月のP基処算定についてご再調ください」等の理由で当該月のレセプトのみが返戻されます。医療機関でカルテを確認して、スケーリングの算定漏れでしたら、その月のレセプトを取下げ請求し、スケーリングを追加修正して正しいレセプトの再提出を行ってください。

このように返戻付せんに「縦覧点検より…」等の理由が書かれていた場合は、医療機関で取下げ請求が必要になる場合がありますので、ご注意ください。

2 再審査請求について

1次審査、突合点検又は突合再審査、再審査で減点査定になり、その審査結果に対して疑義が生じた場合は医療機関から再審査請求を行ってください。ただし、傷病名の欠落、記載誤り等による減点査定分は、再審査請求の対象になりませんのでご注意ください。

(1) 1次審査で減点査定になった場合

1次審査で減点査定になり、その審査結果に対して疑義が生じた場合は、再審査請求を行ってくだ

さい。

再審査等請求書に必要事項を記載するとともに当初請求と同一内容レセプトの写（レセプト上部余白に「写」と表示）添付について協力要請がなされています。

(2) 突合点検又は突合再審査で薬剤が減点査定になった場合

院外処方せんにより薬剤を投与している医療機関で処方した薬剤が減点査定になった場合は一部負担金をもらっていない調剤関係（薬局）の点数まで減点査定になってしまいます。その審査結果に対して疑義が生じた場合は再審査請求を行ってください。

突合点検又は突合再審査での再審査請求には再審査等請求書に必要事項を記載するとともに当初請求と同一内容レセプトの写（レセプト上部余白に「写」と表示）の添付について協力要請がなされています。

なお、再審査等請求書に突合点検調整額通知票又は突合点検調整額通知票（再審査）に記載されている薬局コード、名称を記入します。（府県）欄については、薬局の所在地が他府県の場合に記入が必要です。

(3) 再審査で減点査定になった場合

保険者からの再審査請求で減点査定になった場合で、その審査結果に対して疑義が生じた場合は再審査請求を行ってください。

再審査等請求書に必要事項を記載するとともに当初請求と同一内容レセプトの写（レセプト上部余白に「写」と表示）の添付について協力要請がなされています。

※ 再審査請求には保険者からの請求と医療機関からの請求の二通りがあります。

現状では保険者からの再審査請求が圧倒的に多く、医療機関からの再審査請求は少数ですが、電子レセプトにおいては縦覧点検・突合点検・算定日情報の記載による1次審査が始まっており、今後、減点査定が増えてくることに伴って医療機関からの再審査請求の増加が予想されます。

なお、減点査定に対して再審査請求を行う場合は請求理由欄に医学的な根拠等をしっかり記入するようにご留意ください。

（「再審査等請求書」等記入の際の注意点）

再審査記載例

- ・一次審査の結果に対する場合は、当初に請求した年月（通常は診療年月の翌月）を記入してください。
- ・調剤審査の結果に対する場合は、「診療報酬相殺通知書」に記載されている相殺年月を記入してください。
- ・再審査結果に対する場合は、「再審査等支払調整額通知票」に記載されている調整年月を記入してください。

再 審 査 等 請 求 書

平成 年 月 日 4 0

社会保険診療報酬支払基金 御中

保険医療機関等の所在地及び開設者氏名 千葉市中央区問屋町2-1
支払基金病院 担当者氏名
電話番号 043(241)9151 (内線番号)

下記理由により、診療報酬明細書を 1=再審査 2=取下げ ① 願います。

診療年月の記載もれにご注意ください。

突合点検又は突合再審査で減点された場合は突合点検調整額通知票又は突合点検調整額通知票（再審査）に記載されている薬局コード・名称を記入します。

1	点数表 1=医科 3=歯科 4=調剤 5=施設 6=訪問	医療機関コード	旧総合病院診療科
2	診療 請求(調整)年月	明細書区分 1=単独 2=併用 3=老健	入・外等区分コード 1=一次審査 2=調剤審査 3=再審査
3	再審査対象種別が調剤審査のとき、相手方薬局 薬局のコード 薬局の名称	調剤相殺通知書に記載されている薬局のコード及び名称を記入してください。	高齢受給者については、平成20年4月診療分より負担割合の変更により、コードが変更になっておりますので特に注意してください。
4	保険者番号 記号 番号 番号	漢字・英・数・カナ混在 (政府・船員・共済・自衛官) 数字のみ (健保・共済)	②など○で囲まれた記号は「欄」のように記入してください。
5	公費負担者番号 市町村番号 患者氏名 (カタカナ)	医療保険と公費の場合は、第一公費、公費と公費の併用の場合は、第一公費のみ記入してください。	受給者番号
6	生年 1=明治 2=大正 3=昭和 4=平成	性との間は1桁空け満点・半満点は1文字として記入してください。	写しの有無 1=有 2=無
7	請求点数(金額) 食事療養請求金額	薬剤一部負担金 標準負担額	一部負担金 取下げ理由
8	No. ① ② ③	減点事由及び箇所	減点内 基金使用権のため記載不属です

◎1次審査に対して再審査請求する場合
→増減点通知書に記載された内容を記載願います。
◎①突合点検②突合再審査③再審査に対する再審査請求する場合
→①突合点検調整額通知票 ②突合点検調整額通知票（再審査）③再審査等支払調整額通知票に記載された内容を記載願います。

請求理由を記入します。
記入しきれない場合は別紙に記入し、添付願います。

請求理由

No.	結果	原審理由	摘要
1	復活・原審		
2	復活・原審		
3	復活・原審		

備考

基金使用権	増減点	請求理由	整理	請求額	長期	診療科	再々審
-------	-----	------	----	-----	----	-----	-----

入・外等区分コード:1=本人入院 2=本人外来 3=未就学者入院 4=未就学者外来 5=家族入院 6=家族外来
7=高齢受給者一般・低所得者入院 8=高齢受給者一般・低所得者外来 9=高齢受給者7割入院 0=高齢受給者7割外来

※ 「再審査等請求書」の内容に誤りがあると保険者が確認に手間取り、再審査の調整に長期間要することとなりますので、記載内容に誤りのないようご記入下さい。
また、記載する筆記用具は鉛筆(0.5ミリHB)で枠からはみ出さないようお願い致します。

※ この用紙は支払基金のもので、各地区社保・国保により用紙が違ふことがありますので、ご留意下さい。

2012年卒後研修セミナーを振り返って —アンケートでいただいたご意見から—

事業推進部 学術委員会 2012プログラム委員長
高橋 潤 一



西井講師のわかりやすい講演



山本講師の熱い指導

2012年の卒後研修セミナーは、「科学の視、信頼の技術」をテーマに開催されました。どのセミナーにも多くの先生方が参加され、熱心に受講されていました。我々は、毎回アンケートをお願いしています。そのアンケートから、1年間のセミナーを振り返ってみたいと思います。

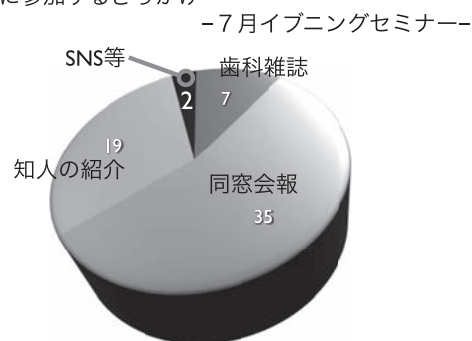
セミナーのスタートは4月でした。ベーシックセミナー「初診の患者さんをどうみるか？」を開催しました。アンケートによると、昭和55年卒から平成24年卒まで、多くの方に参加していただきました。このセミナーの特徴は6人程度のグループディスカッションです。ベテランと若手の視点の違いがよく分かり、お互いに有意義だったとのご意見を多数いただきました。

6月には、イブニングセミナー1「有病者の歯科治療で何を注意すべきか」を開催しました。花井淳一郎委員が呈示した情報提供書の実例を元にして、市川総合病院の片倉教授、西田教授、小坂橋教授によるディスカッションの時間が、具体的で分かりやすいと好評でした。

イブニングセミナー2「最新重度歯周炎患者へのアプローチ」は7月の土曜日の開催でした。イ

ブニングセミナーでは、各講師の対談形式を取り入れました。齋藤教授、二階堂臨床教授の講演と対談は、最新のエビデンスを元にしていて、難しい内容をわかりやすく伝えることができたかと思えます。アンケートでも、とてもわかりやすかった、とのご意見を多数いただきました。翌日は、このイブニングセミナーに関連した臨床実習セミナー「細菌・抗体検査の実際と歯周外科実習」でした。実

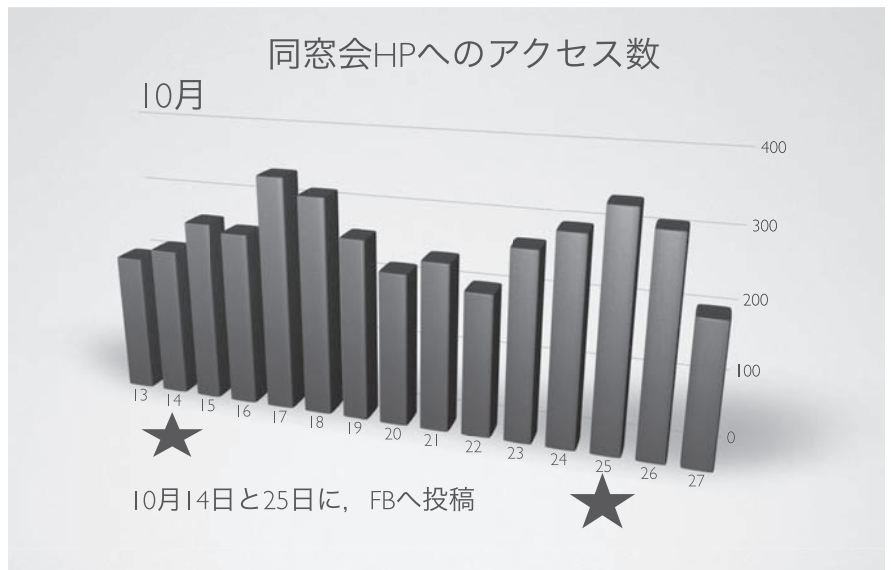
セミナーに参加するきっかけ



習では、基本的なスケーラーのシャープニング実習を採り入れました。意外にも、シャープニング実習の満足度は非常に高く、「信頼の技術」には、基本が大切なことが受講生にも理解して貰えたと思います。

イブニングセミナー3「開業医が取り組む摂食嚥下リハビリテーション（入門編）」は、これからの歯科にとって、非常に大切で注目されている分野ですが、開業医にとって十分理解されていないことも多い分野です。大学から石田准教授に登壇していただきました。アンケートでは、わかりやすい、とてもわかりやすい、が大多数を占めました。一人も、「わかりにくい」と答えた受講生がいなかったことは、注目すべき点でした。

最後のセミナーは、臨床実習セミナー2「たったこれだけ！MTM！」。今回は、ブリッジの支台歯などに应用するアップライトと、残根状態の歯の挺出に的を絞ってみました。補綴設計を行う際に、残存歯を有効に使うためのMTMの基本技術です。若手の受講生が多く、大変高い満足度の評価をいただきました。



図に示すのは、イブニングセミナー2において「セミナーを何で知りましたか？」というアンケートの結果です。半分以上の方が、同窓会報をご覧になって申し込んでおります。ここで注目したいのは、まだ少数意見ですが、「SNS等」という部分です。既に活用している方も多くはありますが、facebookなどSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を通してのセミナー案内です。昨年、各セミナーの開催少し前に、私のfacebookページ等に、セミナーご案内のホームページをリンクしてみました。その結果、同窓会のホームページのアクセスカウンターに

よると、私がセミナー案内をリンクした後、アクセス数が上昇することも見受けられたようです。今回のアンケートで、SNSの情報から申し込んだ方もいらっしゃる事が分かりました。現時点では、個人的な範囲でのリンクでの結果ですから、微々たるものと思われませんが、今後、注目すべき方法ではないでしょうか。

学術委員会では、これからも同窓の皆様へ、セミナーを通して学術情報を発信していきたいと考えておりますので、ご意見、ご要望を是非お寄せ下さい。よろしくお願いいたします。



熱心に実習中！



齋藤教授、二階堂臨床教授、講師を囲んで

支部のうごき

東京地域支部連合会

東京地域支部連合会中央地区役員 連絡協議会

平成24年9月25日(火)午後7時より上記協議会を割烹「島村」(八重洲)において開催しました。中央地区は、千代田、麹町、丸の内、日本橋、京橋、芝、麻布赤坂、本郷、小石川、下谷、浅草の11支部約350名の会員を擁する、東京地域支部連合会の中でも最大のブロックですが、他の地区では毎年行っている同様の会合を、なぜかこの14年ほど開催していませんでした。しかし、この度同窓会本部の評議員削減により中央地区も大幅に削減(11名→2名)されたのを機に、再出発することになりました。

まず最年長の大野 誠(昭和42

年卒)麹町支部長、つづいて来賓の浮地文夫東京地域支部連合会会長より、ご挨拶をいただきました。報告事項では、白井文規(昭和55年卒)京橋支部長の座長の下、高橋義一(昭和48年卒)小石川支部長(本部専務)から、これから開催される評議員会について、選挙制度、会員加入促進案等について詳細に問題点などの説明がありました。また山 滋(昭和54年卒)日本橋支部長(連合会専務)より、今後の連合会の事業について説明やお願いがありました。

協議事項では、会合名、本会合の開催時期、世話人の順番等を話し合い、次期世話人には千代田区3支部の担当と決まり、代表して川上光一(昭和51年卒)千代田支



部長が閉会の挨拶を述べました。

懇親会に移り、お酒も入り、日本橋老舗の料理に舌鼓を打ちながら和気藹々の雰囲気、宴会は大変盛り上がりました。普段、支部長会などでは、なかなか話をする機会のないメンバーですが、ほぼ同じ環境にある支部同士、仲良く楽しく連携を取っていこうと固く心に誓った夜でした。

(日本橋支部長・山 滋 記)



東海地域支部連合会

平成24年度定時総会 並びに記念講演

平成24年9月2日(日)、午後1時より名古屋マリオットアソシアホテルに於いて定時総会が開催されました。今年度より会員の利便性を考え幹事県に関係なく名古屋で開催することとなり、幹事は静岡県が務めました。110名の総会参加者があり盛大に開催することができました。

総会は松下 茂静岡県支部副支部長の開会の言葉にはじまり、荻原英生東海地域支部連合会会長の挨拶。続いて物故会員への黙祷を捧げました。



来賓として井出吉信学長より、大学移転と血脇記念ホールの建築の進行状況などの説明があり、続いて同窓会副会長佐瀬俊之先生と同副会長梅村長生先生から会務状況の説明をいただきました。また、54年卒業の衆議院議員川口浩先生にもご挨拶いただきました。



た。そして静岡県支部の小澤照雄先生を議長に選任し議事に入りました。23年度の会計報告は満場一致で可決され、愛知県の次期幹事も承認され総会は終了しました。

記念講演は歴史小説家の安部龍太郎先生を講師にお迎えして東海地域にふさわしい演題『信長の流通政策と海外交易』についてご講演いただきました。安部氏が第148回直木賞を受賞したニュースも記憶に新しく、タイムリーな講師人選となりました。

記念講演会の後、同窓会理事太田昭二先生のご乾杯のご発声で懇親会がはじまりました。静岡県支部の安原考由先生の奥様でジャズシンガーのマリテス様の華やかな歌声の流れるなか懇親会は和やかに進み、荻原連合会長の指揮のもと校歌斉唱を行い散会としました。
(赤堀仁則 記)



成瀬愛知県支部長（次期連合会会長）



連合会会長・講師



学長を囲んで

近畿地域支部連合会

錦秋深まる11月23日(金・祝)、小雨降る中、第64回東京歯科大学近畿地域支部連合同窓会総会・学術講演会が、京都市東山区三条蹴上のウエスティン都ホテルにて行われた。

午後1時より京都府支部河野の司会で総会を開始、校歌斉唱、物故者への黙祷の後、永田賢司京都府支部長の挨拶に続いて、来賓としてお招きした井出吉信学長より、大学の現状について説明があり、水道橋への移転事業の進捗状況や学内の状況についての詳しい報告がなされ、なかでも、近年他大学において行われている授業料の値下げ競争が、入学してくる学生の学力等に与える影響が大きくなりつつあることや、ひいては受験生の質にも影響が出始めていることなどを、様々な資料を提示しながらご説明された。このような

状況下、父兄をも巻き込んだ教育ならびに研究の推進が重要であることを強調され、その成果として、国家試験の合格率上位を維持できているとされた。

また、矢崎秀昭同窓会長、高橋義一専務理事からは、同窓会の現状として若い会員の同窓会への関心が薄く、地域支部に入会せずそのまま音信不通になってしまう傾向があることが説明され、このままでは同窓会が立ちいかなることが危惧されることから、若手の声を同窓会運営に反映させるための数々の試みを行っていることの報告があった。

これに対して会員からは、国家試験の合格率は高いが、教育や研究レベルの維持ができていないのかといったことや、研究成果を診療報酬に反映させられないのかといったことが質問された。これに



対して、井出学長から水道橋への移転は、他大学との人的、学術的な交流をも促す目的があることが披露され、単科大学では規模が限られる教育・研究費をこのような事業で補っていき、成果を上げたいということが説明された。また、現在の高齢化社会を反映して歯科界は、摂食嚥下などの分野に守備範囲が広がりつつあり、この分野での教育・研究を臨床に反映させるべく力を入れていることが説明された。そして、西村眞治副支部長の総会閉会のあいさつで総



会は無事終了した。

つづいて、オーラルメディスン・口腔外科学講座の片倉 朗教授をお招きして、“歯科医師の目で口腔癌の早期発見を—先生方の診療室が早期発見の最前線です—”というテーマで学術講演会が開催された。片倉先生は市川総合病院に勤務されているということで、まずは市川総合病院の歴史から話が始まり、古い写真も織り交ぜられ、年配の先生方からは歓声が上がった。そして、オーラルメディスンのスタンスとして検査の評価をしていくことを挙げられ、それには隣接医学の知識が不可欠との観点から先程の市川総合病院設立の経緯とリンクさせた話をいただいた。各論としては、日本の口腔癌の発症率は年々上昇してきており、これは先進国においては

日本のみという不名誉な状況であり、ことに若い女性の口腔癌が増えているという、我々が座学で習ったこととは全く違う傾向を呈しつつあることが示された。口腔内の見方としては、自分なりの方法で口腔内全体を見渡す基準を身につけることが大事とされ、普段見慣れている患者さんの口腔内とちょっと状況が違うなど思った際には、迷わず検査を受けさせることが病変の早期発見につながることを強調された。ことに赤色病変と、白色病変は危険度が高く、口腔内の紅白はあまりめでたくないとのことである。そして会場に到着する前に東福寺を拝観されたとのことで、そこで御自身で撮影された色とりどりの落ち葉を例えに出して、境界不明瞭な非均一型の病変は特に注意すべきことを強調

された。最後に、唾液による癌の診断の実用化に向けて研究されていることを披露され、講演を締めくくられた。

その後、宴席に移ったが、今回は趣向を変えて、宴席の前に笑福亭円笑さんをお招きして落語を一席お話しいただき、場を和ませたところで、宴に移った。

永田支部長のあいさつに続いて、荒木 賢先生による乾杯の後に、皆それぞれが美酒に酔いしれながら旧交を深め合った。最後に丸山康子副支部長の挨拶を以って無事お開きとなった。

1年中で最も京都が混雑する時期と重なり、来訪された方々は市内の移動に気を使われたと思うが、非常に有意義な1日であった。(京都府支部・河野多聞 記)

栃木県支部

東京歯科大学同窓会栃木県支部の定時総会が平成24年12月2日宇都宮市のホテルニューイタヤにて行われました。

同窓会本部より常任理事の臼井文規先生、大学より臨床検査病理学教授の井上 孝先生においでいただきました。

臼井先生より、同窓会の現状などをお話しいただき、井上先生には、大学の水道橋移転の状況や在校生の動向などをお話しいただきました。

記念講演として井上先生に「すべては健康長寿のために、医療安全の舞台裏」と題してご講演をい



ただきました。

その後、懇親会へ。

ここで、栃木県歯科医師会会長の柴田 勝先生にご祝辞をいただき、落合雅雄顧問による乾杯、平成ゴスペロール隊による校歌斉唱と日程を滞りなく進めて終了となりました。



当日配られた支部通信のアド街ック天国市川進学課程昭和50年編には当時を知る先生方には思い出深く、稲毛で育った若い先生にはちんぷんかんぷんでしたが、当時の話をする先輩方の顔を見ていると感慨深いものを感じました。

(築瀬 昇 記)

神奈川県支部連合同窓会



平成24年度定時評議員会・総会・研修会・懇親会開催

12月2日(日)ローズホテル横浜において、平成24年度定時評議員会・定時総会・研修会ならびに懇親会が開催された。

評議員会は午後2時30分より杉山紀子会長の挨拶の後、議長に玉井達人評議員会会長、副議長に佐藤秀夫評議員会副会長が選出された。各種報告の中で本年度逝去された8名の会員のご冥福を祈り黙祷を捧げた。その後、新入会員、敬老祝賀会員の紹介が行われた。

続いて議事に入り、上程された5議案について慎重なる審議が行われ、採決の結果、全ての議案は賛成多数で可決承認された。

最後に、杉之内俊郎専務理事の閉会の辞により終了した。

総会は、午後3時30分より杉山会長の挨拶に続き、ご来賓としてお迎えした矢崎秀昭本部同窓会会長、金子 讓理事長よりそれぞれの立場で現況報告を含めたご挨拶をいただいた。

次に、佐藤評議員会副会長が議長、玉井評議員会会長が副議長として登壇。評議員会同様、議案に

対し慎重なる審議が行われ、採決の結果、すべての議案が賛成多数で可決承認された。

杉之内専務理事の閉会の辞により総会は滞りなく終了した。

続いて研修会に移った。鈴木聡行学術部担当専務理事の司会のもと、前日本歯科医師連盟理事長、前神奈川県歯科医師連盟理事長の島村 大先生(本会副会長)に「何故歯科医療に政治が必要なのか」と題してご講演いただいた。

それに先立ち、加藤木 健本会島村 大後援会代表が挨拶された。

島村先生は、冒頭、今回国政に挑戦しようとした経緯についてお話された後、何故、医療に政治が必要なのかを次のように述べられた。「歯科医師連盟は政策提言をすることはできる。しかし保険診療は国策なので政治の力が必要となる。昨今、歯科界には問題が山積している。

そこで歯科医師の免許を持った者が厚労省の政策立案に携わることが出来れば、歯科の立場をしっかりと理解してもらえることになるだろう」。そして「医療の現場の声を伝えることが重要。そのた

めには業界団体の力が不可欠でありさらなる組織率の上昇を希望する。この歯科界をよくするには政治の力が必要である。ご支援をどうかお願い申し上げます」と結ばれた。

懇親会は午後6時30分より、矢崎同窓会会長、金子理事長をはじめ、神奈川県歯より高橋紀樹会長など多くのご来賓をお招きして開催された。ご来賓の川口 浩衆議院議員からもご挨拶いただいた後、90歳を超えて益々お元気な本会相談役矢島敏夫先生の乾杯の発声で開宴し、途中で、敬老祝賀会員への記念品の贈呈や新入会員紹介などが行われ終始和やかな雰囲気の中、懇親の輪が広がった。

最後に、毎年恒例の全員で校歌を斉唱しお開きとなった。

(宇佐美貴弘 記)



茨城県支部

12月2日(日)午後1時より、JR水戸駅南口のホテルレイクビュー水戸にて、平成24年度東京歯科大学同窓会茨城県支部「如水会」の総会・学術講演会・懇親会が、32名の同窓の先生の出席を得て開催されました。

高野一夫幹事長の司会のもと、牧厚志副支部長の開会の辞に続き、今年度亡くなられた1名の会員（堀江伸美先生）に対し全員で黙祷を捧げました。小鹿典雄支部長の挨拶に続き、高野幹事長による本日ご来賓の先生方3名のご紹介と、今年度の新入会員の大野朝也先生（昭和49年卒）の自己紹介の挨拶がありました。

続きまして大金誠議長の進行のもと、大学からの来賓として公務に多忙な井出吉信学長が、本年4月より新1年生が水道橋にて勉学に励んでいる「さいかち坂校舎」の姿と、TDCビル・水道橋病院の改修、増築工事の現状、および本学と他大学との比較についての大学近況等のご報告があり、続いて同窓会本部からの来賓とし

て佐瀬俊之副会長が、最近の同窓会本部活動ならびに同窓会組織改革についてご報告を頂きました。

続きまして今年度の会務報告、県歯報告、県歯国保関係、県歯連盟関係の報告がされ、次に議事に移り、昨年度の決算、次年度の予算案、事業計画案の承認の後、次年度支部長・監事の改選となり、小鹿典雄先生が支部長に再任され、監事の山添雅夫先生、島田洋次先生、お二人も留任となりました。次に協議事項として、同窓会本部から依頼のあった「若手ネットワーク担当者（本県支部は3名）」の人選があり、沼田裕之先生（昭和59年卒）、長岡未佐子先生（平成元年卒）、そして私、田澤重伸（平成5年卒）の3名が推挙され、満場一致で決定しました。

休憩の後、学術講演会として、本学千葉病院の摂食嚥下・リハビリテーション・地域歯科診療支援科准教授 石田 瞭先生による「周術期医学管理でGPに求められる基本的な知識、技能について一特に摂食・嚥下の観点から一」とい

う演題にて、平成24年度診療報酬改定の重点課題のひとつである①周術期における口腔機能管理と、②地域医療連携と在宅医療の充実の中、とかく難しく思われがちなか
①周術期における医科・歯科連携、歯科・歯科連携を通じての口腔機能管理の重要性について、地域医療連携の必要性が、これからの超高齢化社会の中で重要かつ貴重なる知識を、我々一同へ丁寧にご教授頂きました。

記念写真撮影の後、懇親会会場へ移動し、平田輝行親睦幹事司会のもと、久保木康輔先生（昭和29年卒）の乾杯発声の後、先輩後輩、和気藹々と大いに語り、大いに酌を酌み交わし、最近の会員動向として出席した皆様から1分間スピーチをそれぞれ発表し、時間の許す限り楽しい時間を過ごして、幕となりました。

最後に、井出学長のご活躍により、総会・懇親会の場で、母校への寄付の意志を表明した会員が「多数」いましたことを申し添えます。（田澤重伸 記）



千葉県支部



阿部伸一教授

平成24年度千葉県同窓会学術講演会・定時総会・懇親会

平成24年12月2日(日)午後、京成千葉中央駅に隣接する京成ホテルミラマーレにて、約70名が出席し上記が開催されました。

総会に先立ち母校解剖学講座主任教授の阿部伸一先生に「臨床に役立つ機能解剖学」と題し、前半はインプラントオペと外科小手術の危険回避に関するポイントについて、後半は総義歯作製の勘所および高齢者の咀嚼・嚥下機能について、貴重なご献体の映像を交えて大変印象に残るご講演をして頂きました。

総会では北浦俊明副会長による開会、高原正明会長挨拶の後、同窓会本部副会長の浮地文夫先生、副学長の柳澤孝彰先生、千葉県歯科医師会会長の浅野薫之先生、以上3名のご来賓の挨拶を頂きました。

萩倉 純議長と財部正治副議長により例年と同様につつがなく議事進行致しました。また今年は12名もの新入会が有り、そのうち総会に出席の4名から自己紹介して

頂きました。

次に木俣 茂副会長の閉会の辞の後、懇親会に移行致しました。

平成25年は関東地域支部連合会総会の開催県です。9月1日(日)に水道橋新校舎内の新血協記念ホールで開催を予定しています。

最後に本会会員の白須賀貴樹先生(流山市・平成12年卒)が今回の選挙で自民党から千葉県第13選挙区で立候補し、見事衆議院議員に当選されました。今後のご活躍

を心よりお祈り申し上げます。

(長野恭輔 記)



自己紹介する4人の新入会員



懇親会

横浜鶴見支部

12月15日(土)午後7時より、大衆酒席「正木屋」において、10名参加のもと鶴見東歯会忘年会が開催された。

開会前に各自「お茶がわり」と称して好きなアルコールを注文。「どうだい景気は」「出るのはお金とため息ばかりだよ」と少々やけ酒気味。定刻となり、はじめに佐藤秀夫会長が挨拶した後、乾杯の準備へ。「大先輩にあらかじめ乾杯をお願いすると、考えた原稿が頭に浮かんで夜も眠れないといけない」という会長の粋な計らいで、乾杯の発声は会長が突然指名するサプライズな形式を取ることとなった。参加最年長の宇佐美雅弘先生が指名され、すでに色とりどりのお酒の入ったグラスを高らかに上げ乾杯が行われた。

恒例となった「正木屋」での忘年会も今年で10回目。今回は、はまぐり鍋が登場。グツグツと湯気をあげた鍋の中で貝の口が開き、熱々を頂く。プリプリした食感で、噛めば噛むほど旨味が口いっぱいに広がり、お酒も進んだ。



いい心持ちとなったところで会員近況報告が行われた。今年にはロンドンオリンピックが開催されたこともあり「今年一番の金メダルだったことを教えて下さい」をテーマに掲げ、金メダルをぶら下げて近況を交え報告がなされた。「悔しいことに1年をどんなに振り返ってみても金メダルなことなど思い浮かばない。来年は金メダルを目指したい」「健康で過ごせたことに金メダル」「開業以来、最多の来院数を記録した。こうして還暦を過ぎても元気で仕事出来る身体に育ててくれた親に金メダル」「娘の結婚が決まった。父

として最高の金メダル」などそれぞれ今年の金メダルな出来事を報告した。

次いで記念撮影。メダルをぶら下げて1枚。メダリストよろしくメダルの端をかじるポーズでもう1枚。光り輝く金色のメダルが会報ではお伝え出来ず残念(カラーの写真は同窓会ホームページからぜひご覧ください)。

最後に、吉田礎久先生の閉会の辞と一本締めにてお開きとなった。(宇佐美貴弘 記)

写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。



横浜南部支部

社保講習会開催

平成24年11月10日(土)18時より、上大岡にあるウィリング横浜福祉保健研修交流センターにおいて、当支部主催の社保講習会が開催された。

講師には、前日歯社保担当理事の森岡俊介先生(昭和47年卒)をお招きし、「歯科診療報酬請求への対応」という題でご講演いただいた。

2時間半を超える熱演では、森岡先生ならではの切り口で豊富な資料と共に社保制度の仕組みを解説され、講演後には質疑も活発に交わされた。

閉会后、「義寿し」に席を移し、講師を囲んで懇親会を行った。



平成24年度総会・懇親会開催

平成24年12月8日(土)18時30分より、横浜市金沢区能見台のレストラン「山水」において平成24年度総会ならびに懇親会が開催された。

総会は鈴木信治専務理事の司会で開会され、まず玉井達人支部長が本年度の当支部の活動状況、神奈川県支部連合同窓会の状況、本部同窓会の現況など、報告を兼ねた挨拶を行った。引き続き田中

五郎庶務担当理事より表彰会員、敬老祝賀会員の紹介等会務報告が行われ、続いて浅川 仁厚生担当理事から夏のレクリエーションの報告が、次いで甲田正治会計担当理事から会計報告が行われた。議案に移り、平成23年度各種報告が滞りなく可決承認された。また本部同窓会から要請されている「若手ネットワーク担当」には、五條和郎君が選出され、満場一致で承認された。

来賓の杉之内俊郎神奈川県支部連合同窓会専務理事からは、連合同窓会の現況、島村 大後援会発会式等の報告を兼ねたご挨拶をいただいた。

総会后、当支部恒例のミニ講演会が行われた。

今回は相談役の浜野文夫先生に「東海道味の旅を語る」という題でお話しいただいた。浜野先生はかねてより美味しいものを求めて全国を食べ歩き、その記録を「味の旅」全8冊に纏め、上梓されている。今回はそのなかから東海道編をダイジェストしての講演であった。日本橋を出発して東海道を京都へ下る(上る)食べ歩きの旅を、美味しそうなご馳走の写真と共にユーモア溢れる語り口で楽しげに話された。

懇親会は山下正雄相談役の乾杯のご発声で開始され、レストラン自慢の料理を堪能した。それぞれ懇親を深めたところでちょうど時間となり、山下 誠副会長の閉会の辞でお開きとなった。

(広報・渡邊宇一 記)



横浜西部支部

秋の一泊総会の報告

平成24年11月7日(水)、旭区が幹事で、熱海「さくらや」にて秋の一泊総会が開催された。

当日は、来年度当支部入会予定で、旭区で開業されている2000年卒虎溪尚孝君をお招きして、計16人の参加があった。

総会は、式次第にのっとり各種報告がなされた後、緊急議題として、「1. 島村 大後援会への寄付金について」「2. 同窓会若手ネットワーク窓口選出について」の2案が取り上げられた。討議の結果、満場一致で下記の通りの決定承認となった。

1については、寄付に対しては異議はなく、金額としては西部支部会費より、予定されている会費2,000円×支部会員46人の96,000円を含む500,000円を搬出することになった。



2については、戸塚区の武居純君にお願いすることになった。

その後、永年西部支部の専務として会にご尽力された宮 忠昭君



に謝礼として金一封が贈られた。

総会の後、杉山紀子神奈川県支部連合同窓会会長より、「東日本大震災被災地訪問報告～被災地から学ぶこと～」の演題で現地の状況をスライドを交えてお話しいただいた。

講演の後、宴会に入った。宴会は皆、笑顔が絶えず、楽しいひと時を過ごした。最後はみんなで記念写真を撮り、宴会は終了となった。
(渡瀬秀彦 記)

川崎支部



平成24年10月20日(土)、川崎水橋会家族懇親会が開催された。

今回は、日本の4大工業地帯のひとつ、京浜工業地帯の夜景を運河から眺めることが出来る『工場夜景ジャングルクルーズ』を企画した。第1回かながわ観光大賞を受賞した大人気のクルーズです。

午後7時に、会員・家族39名を乗せたカタマランクルーザーは、横浜 象の鼻パーク棧橋(ピア象

の鼻)から出航した。古賀克隆会長の開会と挨拶の後、中島善和先生の乾杯の音頭で懇親会が始まった。

みなとみらいの夜景を眺めながら、buffet形式のお食事を楽しんだ頃、クルーザーは、京浜運河～川崎港～塩浜運河～田辺運河～南渡田運河の工場へと巡覧した。運河沿いにひしめく数々のプラントやタンク、倉庫などの美しいラ

イトアップは、まるで宇宙ステーションのようでとても幻想的。炎が吹き上げる煙突は迫力満点!昼間から想像が出来ないような夜景を皆でデッキに出て楽しんだ。再びみなとみらいに戻り、2時間のクルーズは、関 暁子副会長の閉会の辞で終了した。

棧橋に戻った皆の顔は満足そうで、大変楽しく、有意義な家族懇親会でした。(大塩美樹子 記)



神奈川県相模支部



平成24年度総会

平成24年11月10日(土)、小田急ホテル相模大野にて相模支部総会が開催された。今回は、講演会の講師として島村 大前日本歯科医師連盟理事長(昭和60年卒)をお迎えした。



総会は、高橋捷治支部長の挨拶に始まり、議長には村山正之先生が選出された。その後、庶務報告が片野好正理事から、会計報告が小原重孝理事から、監査報告が小島正裕監事からなされ、賛成多数で承認された。来賓挨拶では、杉山紀子神奈川県支部連合同窓会

会長から評議員数削減についての説明などがあった。

講演会は、“歯科医師連盟の役割”と題して、島村講師が豊富なスライドを元に、医療は政治なり、一人でも多くの歯科医師を国会へ、医療、歯科界を支えたいと

いう思いを述べられた。

懇親会は、長老の花上弘昭先生の乾杯の音頭で始まり、いつもの全員スピーチやお楽しみ抽選会で盛り上がり、おいしい食事やお酒を楽しんで散会した。

(新倉良一 記)



千代田支部

平成25年1月9日(水)東京歯科大学のお膝元である、東京ドームホテルの熊魚庵たん熊北店で千代田支部同窓会の新年会をいたしました。

長年当会の新年会は全国同窓会支部のなかで、最も早くに行うよう努めています。

千代田支部同窓会は三水会と称し、8月を除く毎月の第三水曜日に集い、勉強会を開いたり、親睦会を行ったりと活発に活動をいたしております。

三水会には大学法人や同窓会、歯科医師会あるいは学術で有名な先生も数多くおられ、さぞ厳かな会なのであろうと新参者としては

思っていたのですが、実は非常に和やかでアットホームな会でありました。

新年会当日は新春早々でお忙しいところにも関わらず、東京歯科大学同窓会長の矢崎秀昭先生、東京地域支部連合会長の浮地文夫先生、東京歯科大学副学長の柳澤孝彰先生、東京歯科大学水道橋病院医事課長の杉戸博記先生をご来賓としてお迎えすることができました。

山本雅通先生の司会で川上光一千代田支部長の挨拶のあと、ご来賓の先生方から大学の本格移転に伴いまして、お膝元にある千代田支部とますますの連携をとって

きましようと、我々にとっては大変ありがたい、光栄なお言葉を頂戴いたしました。

会務報告では、2月の勉強会では衛生士を連れての勉強会とすること、またその後の勉強会には水道橋病院連携のお話を受け、水道橋病院の内科や眼科など医科先生のお話を聞けないか交渉してみましようとの話ができました。

お酒が適量入ったあとは東京ドームホテルたん熊の、すっぽんやふぐなど減多に食べられない食材に舌鼓をうちつつ、終始笑いの絶えない和やかな雰囲気が進み、最後は神田一本締めで散会となりました。(大井 崇 記)



京 橋 支 部



白井文規支部長と大山萬夫先生



総会議長の小筆正弘先生



新入会員の横田東生先生

総会・忘年会開催

平成24年12月14日(金)同窓会京橋支部(水京会)の総会・忘年会が銀座「鳳鳴春」にて18名の参加者で開催されました。総会は池田弥和総務(昭和60年卒)の司会進行により、開会の辞、白井文規支部長(昭和55年卒)の挨拶から始まり、小筆正弘議長(昭和60年卒)のもと各担当幹事より、平成24年度の会務報告がなされました。報告後議事に移り、滞りなく各議案は可決確定されました。総会は無事終わり、渡辺克雄副支部

長(昭和60年卒)の司会で恒例の忘年会へと移り、長井正行先生(昭和35年卒)の乾杯のご発声により宴が始まりました。本年水京会から大山萬夫先生(昭和25年卒)、武石醇作先生(昭和38年卒)の2名もの会員が、京橋歯科医師会の名誉会員となりました。残念ながら武石先生は当日体調不良のためご出席いただけませんでした。白井支部長より大山先生に本会からお祝いが贈られました。また今年も嬉しいことに新入会員横田東生先生(平成10年卒)の入

会があり、白井支部長から紹介されました。

年々会員数が減り、会の催事への参加者も少なくなってきたことに寂しさを感じますが、同窓が集まると楽しく、そして何ともかえがたい“絆”を感じ心が暖かくなります。来年は是非とももっと多くの方々に参加して頂き、友好を深めたいと願います。宴もたけなわとなり名残も惜しいところですが最後に吉田浩一副支部長(昭和58年卒)の挨拶でお開きとなりました。(大山貴司 記)



東 信 支 部

今年の信州は夏が終わったら秋がなくて急に冬が訪れた様な今日この頃、平成24年11月18日(日)午後4時より小諸グランドキャッスルホテルにて東京歯科大学東信支部同窓会総会、講演会並びに懇親会が開催された。開会の辞に続いて土屋栄良支部長より、2年間の任期中、会務が支障なく執り行えたことに感謝の意を表する挨拶があった。引き続き報告に移り担当役員より今年度事業報告、会計報告並びに会計監査報告が行われた。又、今年度より東北信で評議員が1人になった事で過日の評議員会は出席した小宮山北信支部長よりFaxを受け、同窓会評議員会・定時総会の報告が土屋栄良支部長より細かくされた。続いて

議事では来年度事業計画や予算案が上程され、執行部の原案通り可決された。又任期満了による役員改正で次期東信支部長に阿部高夫先生が推薦され、全会一致で承認され、次期支部長をお願いすることになった。

総会終了後土屋支部長と同級生である東京歯科大学法歯学講座主任教授 水口 清先生に「法歯学教室の社会活動の話題から」というテーマでお話を戴き、大変内容が最新で興味をそそる話で聞き入ってしまうほどでした。特に数々の有名な事件に関わり、DNAから人を特定する方法は東歯がトップである事、我々東歯同窓生として誇らしく思いました。その後、水口先生と同窓生と記念撮影



して、先生を囲んで出席者19名での懇親会となった。水口先生も東歯同窓のため、東歯の思い出話し等に盛り上がり、酒もすすみ、又講演の内容にふれられ、楽しいあっという間の1時間半でした。最後は村居正雄先生に締めて戴き、後、小池平一郎先生の指揮のもと校歌を唱ってお開きになった。(土屋雅洋 記)



愛知県支部

平成24年度若手勉強会

11月18日(日)午後2時より「東京歯科大学愛知県同窓会 若手勉強会」が愛知県歯科医師会館にて開催されました。これは、成瀬健会長の「若い先生に積極的に参加してもらう同窓会にしたい」という方針の一環として、まずは学術を足がかりに、外部講師の招聘ではなく、若い先生がそれぞれのテーマで発表する会とし、ベテランの先生も交えてざっくばらんに本音で話し合い、毎日の臨床で発生するいろいろな悩みを解決する

糸口を見つけ出していこう、という趣旨で企画されたものです。今回の演題は、「全身的偶発症にて自院から救急車出動要請をした3例について」小関健司先生(平成2年卒)、「コンビロックパーシャルデンチャーにおいて、支台歯を喪失した一例リカバリーについて」加藤 勇先生(平成8年卒)、「私の臨床 ～根管治療～」穂積隆浩先生(平成11年卒)の3題で、各先生しっかりとした資料を準備していただき大変聞き応えのある素晴らしい内容の講演でした。そ

の後、演者から提示された悩みや疑問について、久野昌士学術担当常任理事を中心に、活発な意見交換が行われ大変有意義な勉強会となりました。

若手勉強会終了後は、会場を移し懇親会が開催されました。辻川雅介副会長の挨拶のあと、山田有監事の乾杯のご発声から酒井聡先生の締め言葉まで、ベテランと若手の先生方との交流が楽しく活発に行われ、こちらの方も大変有意義な会となりました。

(竹内英樹 記)



三重県支部



平成25年1月27日（日）午後1時30分より鳥羽市の老舗ホテル「戸田家」において、平成25年定時総会・学術講演会と懇親会が会員24名出席のもとに行われました。

来賓として同窓会副会長の佐瀬俊之先生と本学有床義歯補綴学講座講師の石崎 憲先生に、遠路千葉よりお越しいただきました。

初めに加藤誠康支部長より挨拶があり、さらに平成24年度務報告、平成24年度決算報告、会計監査報告など諸報告と平成25年度事業計画、平成25年度予算などの議事が武藤章美先生による司会のもと滞りなく行われました。

次に佐瀬俊之先生に同窓会本部報告をしていただきました。特に今回は若い卒業生の同窓会未加入問題について詳しくお話いただき、同窓会員の減少やそれによる東京歯科大学の歯科界への影響力の低下など、その切実さを理解することができました。また大学在学中より同窓会に関心を持ってもらう活動をはじめとする、様々な同窓会本部の先生方のご努力、ご苦勞を聞かせていただきました。

三重県においても新加入の先生がここ10年で見ると3～4年に1

人くらいのペースで（昨年一度は3人も入会者がありました）、会員の平均年齢が高くなる一方です。そのため同窓会三重県支部の今後の運営に対する不安があり、大変参考になりました。

全員の写真撮影の後、「デジタルデンティストリーの変遷と顎顔面補綴治療への応用」と題して、石崎 憲先生に学術講演をしていただきました。最初はCAD/CAMなどのデジタルデンティストリーの変遷・種類・活用をお話されました。私自身も技工所から最近様々なCAD/CAMを使った技工物を紹介・提案されましたが、仕組みやその分類がよく分からず戸惑ってしまい、うまく使いこなせていませんでした。お話を伺って少しは理解・整理ができました。大変有意義に聞かせていただきました。

後半では顎顔面補綴治療について講演されました。我々開業医に

は少し遠いテーマかもしれませんが、顎顔面を損傷された患者さんの機能・審美面の回復のみならず、精神面の回復にすごく大きな役割を果たすとても素晴らしいお仕事だと感動いたしました。特に全種類の腫瘍の患者さんの中で、頭頸部腫瘍の患者さんの自殺割合が肺腫瘍の方のそれに次ぐ2番目であるという事実におおいに衝撃を受け、先生の今後のご活躍を大いに期待したいと思います。

その後、同ホテル内の宴会場に移動して懇親会をいたしました。宴会からは少しお体を壊されている寺本康郎先生と、楠崎 渥先生にもお越しいただき、場を盛り上げていただきました。また長年にわたり社会保障の分野で非常なご尽力をされた柘植敏生先生が、昨年末に文部科学大臣表彰という大変名誉ある表彰を受けられ、熊本での受賞式の様子などお話をして



いただきました。東京歯科大学の同窓会員として非常に誇りに感じるものであります。

鳥羽ならでの伊勢エビをはじめ新鮮な海産物に舌づつみをうち、さらにいろいろな話に花が咲きお

互いの親睦を深め、盛況のうちにお開きとなりました。

(宮崎弘隆 記)



岐 阜 県 支 部

去る2012年12月2日に岐阜県支部の同窓会が開催されました。

出席者は10名と小人数ながら、講師には中日新聞社代表取締役社長小出宣昭氏をお迎えして、「中国、韓国との付き合い方」とのテーマにて、大変示唆に富んだ、興味深いお話をしていただきました。

わざわざこの公演をお聞きになり、いらっしゃった医科の先生も御出でになり、会は和気あいあいと進行していきました。

当県は全体でも同窓会員が40名程で、東海4県の中でも一番の少人数ですが、その分会員相互は仲良く、結束は強いものと自負しています。

これからもこの結束を大事にして、より良い同窓会にしていき

たいと思っています。

(大野満知子 記)



愛媛県支部



平成24年総会開催

12月1日(土)、恒例の東京歯科大学同窓会愛媛県支部総会が全日空ホテルにて開催されました。

矢野興一専務理事の司会のもと、兵頭正帛副会長の開会の辞、横山洋行会長の挨拶で開会となりました。本部同窓会常任理事の小林慶太先生より、今後の同窓会の課題、現状、若手の同窓会離れを防ぐため、学生時代からの準会員、卒後5年までの新進会員などの新制度についての話があり、できるだけ同窓会との関わりを若い先生方に持ってもらうようにとの話がありました。

議事では23年度決算が可決され、会計年度の変更についての議

案については再度検討の余地があるとのことで再度協議になりました。平成25年度の事業計画として夏季レクリエーション、TDCセミナーえひめの件について報告がありました。同窓の先生方の多数のご参加をお願いしたいと思います。

総会に引き続いて、東京歯科大学矯正学講座主任教授末石研二先生に、「歯が出ない・萌出遅延の診断と対応」という演題で講演をして頂きました。講演では萌出についての基本事項や、萌出遅延の原因と対応について詳しく解説して頂きました。早期発見と正しい対応が不正咬合の進展を防ぐために有益であるとのことでした。

総会の後は忘年会です。愛媛県歯科医師会会長清水恵太先生をはじめ、友好同窓会である松本歯科大学校友会、奥羽歯科大学同窓会から多数の先生方が来賓としてご出席頂き、恒例になった西岡 学先生進行のビンゴもあり、2時間の忘年会は盛会のうちにお開きとなりました。その後は二番町へ。横山会長の「今夜は27時まで」を実践した先生方もたくさんいたのではないのでしょうか。

日曜日は奥道後ゴルフクラブにて親睦ゴルフ。小雨降る中、運とメンバーに恵まれた松本歯科校友会の羽倉隆昌先生が優勝をさらっていきました。皆さんお疲れ様でした。(松木建二 記)



クラス会だより

十 期 会

昭和37年卒

平成24年10月27・28日愛知県蒲郡市内の名門旅館松風園に於いて総会・懇親会が開催されました。今回は蒲郡市在住の井澤敏雄先生のご協力を得まして大変楽しい2日間を過ごさせて頂きました。

午後5時30分より総会が開催され北海道から参加の、盆子原先生が議長に推薦され恙無く議事進行され、本年亡くなった鳥居先生及び荻沼先生に対して全員黙祷を行い、次回の総会を東京で行う事を決議し無事終了致しました。因みに出席者合計47名と盛会でした。

続いて行われた懇親会では井澤先生のお骨折りで余興に今は珍しくなった三河萬歳の公演、また今は数少なくなった蒲郡芸者さんの踊りと各席を回って宴会を盛り上

げてくれました。約3時間の懇親の後記念撮影を行い宴会もお開きになりました。

翌朝は一同観光バスでまずは井澤先生のみかん農園に行き、折からたわわに実っている蜜柑を見学・試食さらに奥様が用意して下さいだったビニール袋に皆さんがもぎ取った蜜柑をたっぷり詰め込んでお土産として頂きました。ホームページに井澤先生の農場主の写真を掲載してあります。

続いてラグーナ蒲郡併設の海産物中心のショッピングモールを訪れ各々ショッピングを楽しみました。

最後は今回の最大のイベント三谷祭りを前日総会・懇親会を行った秋風園に戻り見物しました。祭

りの見所「海中御渡」では美しく大きな4台の山車が、氏子に引かれながら、300メートルに渡って海を進んで行く、蒲郡が誇る日本でも大変珍しいお祭りだそうです。

約1時間見学した後昼食会場の蒲郡で一流の日本料理屋で昼食を堪能した後蒲郡駅で解散いたしました。

各自総会に参加できた事を感謝し又の再会を楽しみに帰路に着きました。

平成25年十期会は10月19日(土)・20日(日)2日間東京都内発着東京近郊宿泊で考えております。詳細は後日お知らせ致しますが。日程を空けておいて下さいますようお願い致します。(中村靖夫 記)



写真が同窓会ホームページ<<http://www.tdc-alumni.jp>>に掲載されています。

富 巳 会

昭和40年卒

懇親クラス会

富巳会クラス会・総会は2年に1度各地持ち回りで行われています。

全員が還暦を迎えた頃「他のクラスに比べ逝去会員が多い。年と共に体に故障を抱えがちで、いつまで参加出来るか分からない。」との声が多く聞かれるようになったので、機会を多くしようとの声が上がリ、東京在住の幹事がその役を引き受けました。「集まれる者が集まる」の趣旨で「懇親クラス会」が定例総会の間の年に東京で開かれるようになりました。

定例のクラス会は昨年は栃木で開かれ、来年は北海道の会員が幹事を引き受け第1報が届いています。間を繋ぐ会ですから参加者は多少少なくなりますが、23名が集いました。(第1報では35名の参加返信があったのですが、我々の年代では体調の変化、冠婚葬祭の主唱や付き合い、後継者がいたりリタイアして時間の余裕があると海外旅行に誘われたりで、予定変更が多く出ました。)

地方開催では観光を兼ねて団体行動で会を進行出来るのですが、何でも有りの東京では会員の嗜好が纏まりにくく意外に行事の予定が組みにくいのです。今回は最新の名所「東京スカイツリー」に関連して企画したのですが、「そらまち」のレストランは予約を受けない店が多く実現出来ませんでした。

と、あつて11月3日(日・祝)にスカイツリーを正面に見ながらの



パーティーが可能な「東武ホテルレバント東京」6F「クロワドル」で開催しました。新しい物を見ながら古き良き時代の演芸をということで、浅草在住の石山君の伝手で絶滅危惧種の幫間芸「幽玄亭玉八」師匠を招き存分に楽しみました。

最近の定例クラス会は平日2泊3日の日程が多くなり、現役で働いている会員は参加しにくくなっていました。今回は連休初日とあつてかなり珍しい顔ぶれも揃いました。前回までは二次会も全員参加で前もって企画していたのですが、自由参加でよいのではと

の声が多くあり当日の成り行きとしました。やはり連休中とあつて東武ホテルのスカイレストランは予約で一杯、それではと遠路焼酎一升瓶を2本も抱えてきてくれた鹿児島の有川君の言い出しっぺで、半数近くが二次会へと繰り出したのでした。

後3年後、2015年には卒後50周年を迎えます。世俗では銀婚式ですから盛大にお祝いの会をしたいのですが、それまで今世の会員が全て集えることを祈って全会員が競って参集出来る企画を東京幹事一同無い知恵を絞るとの意気込みです。(小林伯男 記)



八 輪 会

昭和50年卒

八輪会クラス会

秋風が心地よい平成24年10月20日、昭和50年卒業生クラス会、八輪会の懇親会が山口県の湯田温泉、維新史跡の宿、松田屋ホテルで広島県と山口県の共同引き受けで開催されました。

八輪会クラス会は地元山口市の藤井寛昭君のあいさつで始まり、児玉重明君の会計報告等があり、逝去されたクラスメートへの黙祷を行った後に、最も遠方（帯広市）から参加した和田大海君の乾杯の音頭で懇親会に移りました。食事は西の京の雅な料理で、瀬戸内の季節の味を堪能しました。また薬理学教授川口 充君より、母校が発足した当時、高山歯学院の時代の話があり、今まで私たちが教えられてきた大学の歴史の重さを改めて知りました。

また広島県の平戸正文、吉田

豊岡君からは酒どころ広島銘酒の差し入れがあり、参加者から大いに拍手を頂戴しました。また、同伴のご夫人の方々もご伴侶のクラスメートということですぐに参加の先生方と打ち解けて、和気あいあいとした楽しい会となりました。

翌21日は少々睡眠不足気味の目をこすりながら、朝からバスでまず山口市の瑠璃光寺の国宝五重塔に向かいました。天気は秋晴れ、絶好の観光日和で、紅葉が始まりかけている木立の中の端正な姿の五重塔は印象的でありました。そして明治維新の志士たちも往来した古道、萩往還に沿う道を萩に向かいました。

萩ではまず吉田松陰を祀る松陰神社と松下村塾を見学し、浮世絵コレクションで世界的に有名な浦上美術館を訪れ、ちょうど開催さ

れていた古萩展をじっくりと鑑賞しました。

昼食は松本川河畔の雁嶋別荘で山陰の秋の味覚を堪能しました。昼食の後、天然記念物の秋吉台・秋芳洞に向かい、まず、カルスト台地を観光した後、秋吉洞に入り出口の黒谷支洞までの約1kmを散策しながら自然の造形美と神秘とを満喫しました。

帰りの時間のこともあって少々強行軍でもありましたが、観光よし、味よし、天気よしの3拍子で学生時代に戻っての楽しい2日間でありました。

一行は新幹線新山口駅と山口宇部空港から帰路に着き、別れ際には次の再会を約束し合っておりま

またおいでませ 山口へ

(田中 彰 記)



八十二期会

昭和52年卒

平成24年11月3日、4日、八十二期会同期会が開催されました。3日はさいかち坂新校舎にて校舎見学、井出学長による母校状況説明、総会、同期の大川延也君による学術講演が行なわれました。井出学長には本学同窓会評議員会、地方出張の間の多忙な時間にご臨席いただいて深く感謝します。井出学長より「東歯大卒業」ということを歯科医仲間では胸を張って言えるというご発言もありましたが、皆同感であるという顔をしていました。大川君には高齢者の摂食障害治療についての話をしてもらいました。歯科医としての勉強だけでなく、もうすぐ治療を受ける立場になるので皆真剣に講演を聞いていました。その後場所をザ・プリンスパークタワー東京に移して懇親会を行ないました。来年3月には全員が還暦を迎えることとなりましたので還暦を祝う会を兼ねて懇親会を行ないま

した。学年副主任だった細川伊平先生には毎会出席していただきありがたく思っております。昨年の地震の被災者の吉川道雄君、佐藤和則君も元気に出席していただきうれしく思いました。兩名には辛い記憶とは思いますが、地震時の状況について話をしてもらいました。地震津波の恐ろしさを強く感じましたが、出席できなかった同期被災者も人的被害がなかったのが不幸中の幸いでした。恒例ではホテルの写真室で集合写真を撮ることになっていましたが、寄る年波には勝てずハッキリ写るとあとで自分の姿ががっかりする、という声が多くありましたので、今回は宴会場にて素人による集合写真となりました。宴会後は同ホテルのカラオケルームで深夜0時の閉店まで楽しい夜を過ごすことができました。日頃の修練のたまもので、歌う人歌う人皆さん上手でびっくりしました。



4日は思い出の進学課程校舎跡地、市川駅、菅野駅付近を散策しました。学部進学以来40年ぶりという方もいました。市川付近は僅かな痕跡しかありませんでしたが楽しい青春時代を思い出し、りっぱな市川総合病院を見学できて大満足でした。その後東京スカイツリー、浅草観光を行ないました。

各幹事がそれぞれの持場で全力をつくしてくれたことに感謝します。次同期会は北海道で柴田考典君、吉川克己君の幹事で行なうことになりました。楽しみなことです。 (小谷隆一 記)



八 実 会

昭和53年卒

木枯らし一号が吹き、寒さを増してきた平成24年11月18日（日）に水道橋の後楽園ドームホテルにて八実会の例会が開催されました。卒業後33年を経て今もバリバリ診療をしている人、半分趣味の世界で診療をしている人、主婦業も引退気味の人、地域で役職に就き活動している人、体の衰えに屈せず元気にこの会に集まってくれました。その年の春に叙勲を受けた学年主任の浅井先生にも来て頂き、お祝いをさせて頂くことができました。当日は朝から強い北風が吹いていましたが、雲ひとつない青空で、43階の宴会場からは遠く関東平野や東京湾などがくっきりと眺めることができました。集まった人たちからは銘々に現在の状況などについてユーモア



を交えて語ってもらい、例会は和気藹々のうちにお開きとなりました。

現在大学本部は水道橋移転の最中です。進学課程はすでにさいか

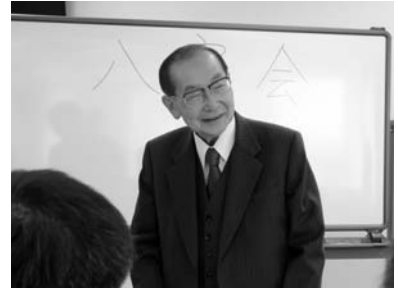
ち坂で授業を行っています。水道橋病院のワンプロック隣では新たにビルを建築中です。今の14階のTDCビルは上層階にあったテナントを一部？やめて、学生のため



の教室や、研究室が設置してあり
ました。その一教室を借りて即席
に浅井先生の講義を受けました。
相変わらずダジャレ連発でしたが
とても楽しいお話で、ひととき学
生時代に戻ったような、なぜか懐
かしい思いに浸りました。

今回は例会でしたが、今年は総

会を開催したいと思います。場所
や日時は未定ですが、趣向を変え
て開催したいと考えております。
また多くの方々に参加して頂き
たいと思っています。さらに、いつ
も裏幹事の蛭谷君を始め八実会を
裏で支えてくれている同輩に感謝
します。 (大井誠一 記)



クラス会開催日程

12 期 会 (昭和39年卒)	と き	平成25年10月18日(金)～20日(日)
	と ころ	東京 エドモンドホテル 飯田橋ほか
富 巳 会 (昭和40年卒)	と き	平成25年6月26日(水)～28日(金)
	と ころ	函館・湯の川温泉～定山溪温泉～ 富良野・旭川
シ チ ヤ 会 (昭和48年卒)	と き	平成25年9月7日(土)
	と ころ	東京 帝国ホテル

OB会・グループ・サークルだより

東京歯科大学管弦楽団 第35回定期演奏会

2012年11月23日にあいにくの雨天の中、第35回定期演奏会が千葉校舎講堂にて開催されました。曲目は、前半にJ.シベリウス作曲の交響詩「フィンランディア」op.26、F.メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲ホ短調op.64が演奏されました。休憩を挟んで、後半にはA.ドヴォルザーク作曲の交響曲第9番「新世界より」ホ短調op.95、アンコールにはP.マスカーニ作曲の歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」より間奏曲が演奏されました。指揮者には、昨年同様、直井大輔先生、ヴァイオリン独奏には篠塚義弘先生になさっていただきました。

「フィンランディア」は、19世紀後半フィンランドが帝政ロシアの支配下からの独立運動の一環としてシベリウスが作曲した「フィンランドは目覚める」の最終曲で、後に改稿して独立させた曲です。

ヴァイオリン協奏曲（メンデルスゾーン）は、ベートーベン、ブラームスのヴァイオリン協奏曲と並んで3大ヴァイオリン協奏曲と

称されてます。この曲は、美しい旋律でドイツ・ロマン派音楽を代表する名作です。

交響曲第9番「新世界より」は、チェコの作曲家ドヴォルザークが作曲した全作品の中で最も有名な曲で、「家路」等の愛唱歌にも編曲されてます。この曲は、ベートーベンの交響曲第5番『運命』、シューベルトの交響曲『未完成』と並んで、日本では「3大交響曲」と呼ばれることもあります。

このように名曲を取り組むため、指揮者のもと現役部員は練習に励んだことと思います。また、単科大学では管弦楽として各楽器が揃わないため、例年と同様に医科系学生や近隣大学の方々が、エキストラとして多く参加して下さいました。今年も多胡 彬先生を初め、大勢のOBの先生方が演奏会に参加されました。このように、歯科の単科大学で管弦楽部の定期演奏会が開催できるのは全国の歯科大学でも極めて稀で、今後とも定期演奏会開催が継続できるよ

うOBの先生方が協力していかなければと思いました。今回の演奏会は、あいにくの雨天でしたが講堂の客席がほとんど埋まるほどで、いつもに増して盛大な演奏会となりました。これは、管弦楽部の定期演奏会が大学周辺の地域に定着し周知されるようになった顕れだと思えます。アンケートにも、大学移転に伴い千葉校舎講堂での演奏会を名残惜しむ内容が書かれておりました。

演奏会終了後は厚生棟にて懇親会が催され、現役部員、OBの先生方、エキストラの方々等、多数の方々が出席されました。多胡彬OB会名誉会長よりご挨拶及び乾杯の挨拶をいただき開会しました。懇親会は和やかな歓談で進行し、現役部員の幹事と次期の幹事紹介がされ、お開きとなりました。

次回の定期演奏会の予定は2013年7月28日(日)です。是非、ご都合のつく方は足を運んでいただければと思います。

(平成7年卒 田中大平 記)



すいどうばし

瞬く間の60年

菊池 豊（昭和35年卒）

「平井さんのこと」を書こうと思ったのは先生と最後に会ったときだった。それは亡くなる1月ぐらい前だったろうか。半分は冗談で、半分は本気で酒に酔った挙句に言ったことだった。しかしそのときがこんなに早く来るとは思ってもいなかった。

それから私は病気になりこの2年間入院したり、某大学病院へ通院したりと落ち着かぬ日々を送っていた。

しかし、日中はすることも無いので、そして忘れないうちにと器

械に向かってこの原稿を書き出した。

書き出してみてもこの平井さんという男といかに長い時間を過ごしてきたかがわかって愕然とした。愕然というのは決して無駄だったからというわけではなく、ただ物理的に使った時間の長さのことである。

しかし、同時にこの時間のうちで、この男にいかに多くのことを学んだかということもいまさらながら知った。

60年に及ぶ付き合いはわれわれの人生にとって決して短くはない。

しかし、過ぎればただの一瞬に過ぎないのではないのだろうか。瞬きのような。



秋を一跨ぎして、早くも街には冬の気配が見えてきました。皆様にはお変わりなく、お元気で過ごしのことと存じます。

このたび、暇に飽かせて恩師、平井満喜男教授とのほぼ六十年にわたる交友の駄文を本にいたしました。思えば永い付き合いでした。ある一人の出来の悪い一学生と、真摯によき教師たらんと努力した一英語教師との、過ぎてみれば短い、しかし思い出の中では永遠のように永い付き合いを綴ってみました。

それ以外には何の特別の意味がある本ではありません。

かつての若い学生も、老齢と自然のボケのゆえにいつもの「流麗」なる文章も書けぬ様になりました。

お付き合いいただく皆様には読みづらいかと思いますが、何卒、いつとき皆様の青春のときを想いしばしのご辛抱を。

皆様のご健勝をお祈りいたします。

菊池 豊

第4回 東京都女性歯科医師の会

総会・学術講演会・懇親会のご案内

<http://www.tokyo-woman-dentists.com/>

東京都女性歯科医師の会 副会長 鈴木千枝子（昭和53年卒）

一段と厳しい寒さで始まった新年でございましたが、そろそろ梅の便りも聞こえる頃となりました。

東京都女性歯科医師の会も第4回の総会を迎えることとなり、下

記の内容で講演会・懇親会を共催致します。

今回は、女性のパワーを発揮できる分野として「介護を歯科からサポートする」と題して職種の違う3名の先生方をお招きしての講

演です。女性歯科医師としての仕事のみならず、実生活においても有意義に活用できると思います。奮ってご参加ください。

日 時：平成25年4月21日（日）

10：00～総会；11：00～講演会；13：30～懇親会

場 所：六本木ヒルズクラブ 森ビルタワー 51階

講演会

テーマ：「介護を歯科からサポートする ～食の環境作りと口腔ケア～」

講 師

・千木良あき子先生（宮城県白石市開業）歯科医師

「地域チームアプローチによる摂食支援 -多職種連携における歯科の役割り-」

・田中靖代先生（愛知県豊橋市ナースィングホーム気の里）看護師

「介護・看護のための摂食・嚥下リハビリの実践」

・南知香子先生（世田谷区立きたざわ苑）歯科衛生士

「介護予防事業・口腔機能向上プログラムにおける歯科衛生士の役割」

会 費 講演会：学生・研修医 無料 歯科医師 会員 2,000円 非会員 4,000円

懇親会：全員4,000円

事務局：（医）高慈会 高野歯科クリニック 高野博子（昭和55年卒） Fax 03（3601）2543

詳細はホームページをご覧ください。

参加ご希望の方は下記申し込み用紙をコピーして上記事務局まで Fax でお申し込み下さい。

また、ホームページからも申し込みが可能です。先着100名とさせていただきます。

参加申し込み

東京都女性歯科医師の会に参加します。 (参加の項目に○)

() 総会 () 講演会 () 懇親会

住所

氏名

連絡先

電話

FAX

E-mail

卒業年度

S H

庶務日誌

- 1月
- 1) 理事会
1月12日(土) 第1回理事会
- 2) 委員会
1月7日(月) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
8日(火) 事業推進部大学連携委員会(準会員セミナー運営委員会)
9日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
10日(木) 事業推進部(ワークショップ)
10日(木) 広報部広報委員会
12日(土) 事業推進部若手ネットワーク委員会(第113期同期会打合せ)
15日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
16日(水) 事業推進部学術委員会(研究部)
17日(木) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
18日(金) 渉外部渉外委員会
22日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
23日(水) 事業推進部若手ネットワーク委員会
23日(水) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
24日(木) 会務検討特別委員会
28日(月) 同窓会・会務運営協議会
28日(月) 事業推進部学術委員会(事業検討会)
29日(火) 事業推進部学術委員会(研究委員会B)
30日(水) 事業推進部保険委員会
- 3) 出張
1月9日(水) 千代田支部新年会 矢崎会長出席
12日(土) 東京地域支部連合会新年交歓会
矢崎会長, 他役員出席
16日(水) 高度歯科医療センター保存科・補綴科完成祝賀テープカット
矢崎会長出席
18日(金) 芝支部総会・新年懇親会
宮地副会長出席
19日(土) 杉並支部新年会 矢崎会長出席
25日(金) 下谷・浅草支部合同新年会
矢崎会長出席
27日(日) 広島県支部総会
学術講演会 講師・齋藤 淳教授(母校)
27日(日) 三重県支部総会 佐瀬副会長出席
- 4) 事業
1月22日(火) 井出学長との座談会
- 2月
- 1) 理事会
2月13日(水) 第1回常任理事会
- 2) 委員会
2月1日(金) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
5日(火) 事業推進部学術委員会(運営委員会)
7日(木) 事業推進部(ワークショップ)
8日(金) 事業推進部シンクタンク委員会
12日(火) 事業推進部学術委員会(研究部)
13日(水) 事業推進部学術委員会(研修委員会)
15日(金) 広報部広報委員会
18日(月) 事業推進部学術委員会(プログラム委員会)
19日(火) 大学・同窓会広報連携打合せ会
25日(月) 同窓会・会務運営協議会
26日(火) 渉外部渉外委員会
26日(火) 事業推進部学術委員会(企画)
28日(木) 事業推進部(企画会議)
28日(木) 総務・厚生部厚生委員会
- 3) 出張
2月3日(日) 滋賀県支部総会
学術講演会 講師・松久保 隆教授(母校)
3日(日) 岡山県支部総会
学術講演会 講師・居木秀明先生(宮城県開業)
11日(月) 牧村正治先生日本大学歯学部専任副総長, 渋谷 鑛先生日本大学歯学部
長就任お祝いの会 矢崎会長出席
16日(土) 北多摩支部総会 矢崎会長出席
23日(土) 鹿児島県支部総会 矢島監事出席
学術講演会 講師・矢島安朝教授(母校)
24日(日) 埼玉県支部新年会 佐瀬副会長出席
- 4) 事業
2月24日(日) 東京歯科大学同窓会フォーラム
「超高齢社会を迎えての、歯科医療におけるパラダイムシフト」

逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 17.9 卒	桑ヶ谷 八 郎 (93歳)	愛知県名古屋市	24.12. 5
●昭 46 卒	大久保 公 晴 (68歳)	神奈川県横浜市	24.12.12
●昭 23 卒	篠 原 健 一 (85歳)	東京都武蔵野市	24.12.14
●昭 24 卒	池 田 治 美 (86歳)	広島県呉市	24.12.14
●昭 35 卒	淵 野 俊 彦 (77歳)	岡山県浅口市	24.12.14
●昭 37 卒	池 田 満 之 (74歳)	神奈川県横須賀市	24.11.19
●昭 29 卒	清 水 宏 (83歳)	愛知県豊橋市	24.12.17
●昭 23 卒	緒 形 巧 (86歳)	神奈川県藤沢市	24.12.13
●昭 16.12 卒	磯 謙 二 (91歳)	愛知県名古屋市	24.12.17
●昭 20.9 卒	久木留 一 廣 (89歳)	東京都荒川区	24.10. 4
●昭 20.9 卒	石 岡 秀 雄 (88歳)	群馬県藤岡市	24.12. 7
●昭 13 卒	清 水 昌 好 (98歳)	東京都国立市	24.12.15
●昭 26 卒	久 和 総一郎 (92歳)	神奈川県鎌倉市	24.12.28
●昭 29 卒	近 藤 宏 (82歳)	神奈川県川崎市	24.12.22
●昭 27 卒	伊 藤 正 彦 (87歳)	北海道札幌市	25. 1. 5
●昭 45 卒	宮 尾 昌 典 (68歳)	神奈川県鎌倉市	24.12.30
●昭 45 卒	西 武 司 (68歳)	愛知県名古屋市	25. 1. 3
●昭 25 卒	今 井 祥 浩 (84歳)	千葉県千葉市	25. 1. 3
●昭 60 卒	瀧 上 徹 (55歳)	静岡県静岡市	25. 1. 1
●昭 22 卒	花 岡 章 雄 (88歳)	長野県上田市	25. 1. 7
●昭 25 卒	中 山 裕 (84歳)	東京都練馬区	25. 1. 3
●昭 24 卒	村 松 恒 久 (85歳)	鳥取県八頭郡	25. 1.15
●昭 32 卒	齋 藤 昇 (81歳)	宮城県仙台市	25. 1.18
●昭 25 卒	堀 内 實 (85歳)	東京都文京区	25. 1. 3
●昭 18.9 卒	高 木 博 (91歳)	岐阜県高山市	25. 1.23
●昭 14 卒	逸 見 治之助 (96歳)	長野県上田市	25. 1.23
●昭 29 卒	丸 島 勝 (83歳)	千葉県銚子市	25. 1.21
●平 20 卒	鴨 居 智 子 (29歳)	長野県塩尻市	25. 1.28
●昭 19.9 卒	関 根 泰 雄 (90歳)	埼玉県さいたま市	25. 1.21
●昭 63 卒	宇野沢 秀 樹 (50歳)	千葉県市川市	25. 1.29
●昭 47 卒	鶴 見 祐 三 (65歳)	静岡県浜松市	25. 1.26
●昭 36 卒	西 辻 良 三 (77歳)	東京都練馬区	25. 1.27
●推薦会員	永 田 千鶴子 (85歳)	東京都大田区	25. 1.16
●昭 31 卒	杉 浦 宏 (84歳)	静岡県島田市	25. 2. 1
●昭 40 卒	鈴 木 隆 男 (71歳)	東京都多摩市	25. 2. 7
●昭 45 卒	片 岡 利 郎 (67歳)	東京都渋谷区	25. 2. 8

稗川汎史君を悼む



はらいかわひろし
稗川汎史君(享年78歳)がご逝去された。死因は腎不全。

卒業後53年の後期高齢者ともなると、毎年のように何人かの訃報が届き、ああ、彼も亡くなったのかと、心が痛む。同期生の死ほど悲しいものはない。わが身に置き換えるからだろう。

我々「久喜会」(昭和36年卒)は、入学当時のA・B・Cに分かれていたクラスが、その後卒業までクラス換えをしないまま6年間を過ごした異例の学年だった。

なかでもCクラスは結束が固く、卒業後、Cクラス会だけの懇親会を毎年のように開催してきたが、彼は欠かさず連続参加していた。そしていつも、我々の中心に

いて皆をリードし続けた。

その彼が昨年だけは体調不良という理由で初めて欠席した。皆が心配していたが、気丈な彼は病名を明かさず、しばらくは音信不通の状態が続いた。そして今回の訃報だった。

彼は、体格もよく、スポーツも堪能で、鉄棒の大車輪はオリンピック選手を思わせるような演技をして、進学過程の体育教師をうならせるほどだった。

また、彼は面倒見もよく、しばしばご自宅に我々貧乏学生を招いて夕食をご馳走してくれた。特に最後に出されたラーメンの旨かったことが忘れられない。

彼は酒もよく飲み、話好きで、年に一度の懇親会のほかにも特に親しい友人(五人衆と言った)と、夏は暑気払い、冬は忘年会、

久喜会(昭和36年卒)

春は花見、秋は紅葉狩りなどの会合すべてに参加した。だが、この1年間は出席できる状態ではなかったらしい。

「死というものはもう会えないということだ」が、もう一度だけでも彼と会って飲み、語りあいたい。

これからも彼の姿・笑顔・声のすべてがイメージの中にある。それが彼を思い出すたびに現れるだろう。それを肴に飲み会が続くに違いない。

我々も近いうちに「そちら」に行くから寂しげに待っていてほしい。

ご冥福を心からお祈りしたい。

合掌

(昭和36年卒・浜野文夫 記)

さようなら、茂木正邦君



虫や草花に造詣が深く、春から夏へは陸上部、冬はスキー部、卒業後は矯正専門医として医科

歯科大の臨床教授にまで。お兄さんの正秀先生が卒後研修セミナーで、お父さんと御兄弟の3人での共同アプローチ症例を紹介されたのが印象的。

スキーに同行した時、スキースカールの指導員が振り返って彼の

滑りを見送る姿も目にした。平和台での全日本医歯薬獣大学対抗陸上で船越先輩と同期3人での1600mリレー優勝は花だった。先輩達の同大会9連覇の時にもこの種目で優勝はなかったはず。

夏の合宿所に昆虫採取のアミを持ち込み、「ハマダラカ」、「クロヤブカ」と言ってその蚊を窓から逃がすなよ。我が家から持ち帰った数株の風蘭が今では実家の木に繁茂しているとか。

高校時代にはラジオ番組“子供

七十九期会(昭和49年卒)

電話相談室”の解答者をやったり、大学時代には螢の成長記録の論文で懸賞金をもらったことも。晩年腕をふるった料理も「マヨネーズはキューピーよりも味の素」発言はちょっと波紋を残したかな。

タバコをやめられない小滝は肺癌で、俺はたまにやるジョギングの最中に心臓麻痺でそのうちに逝くからまたね。永久スクラッチのゴルフの賭けはこれにて終了。

(昭和49年卒・坂井 治 記)

◆投稿規定

※平成24年度より、偶数月発行から年間5回（2，6，8，10，12月）の発行になりました。

- (1) 原稿締め切り
原稿の締め切りは、発行前月の10日までとし、原則として締め切り翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮下さい。ワープロ等電子機器使用の場合は1行15字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ（2Lなど）で集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (4) 写真等の返却
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真の場合は、その旨書き添えて下されば返却いたします。写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。
- (5) 投稿字数

投稿欄	内容	文字数, 備考
追悼	故人の追悼文	600字程度でお願いしています。
すいどうばし いなげ	随想, 詩, 短歌, 時評など	1編1,700字程度（1ページ）。投稿者本人にしか解らない思い入れや、取り止めのない随筆はご遠慮いただき、出来るだけ大学や同窓会に縁（ゆかり）あるものが望ましい。
支部のうごき クラス会だより		1ページ1,700字程度（1ページ以内でお願いします） 写真が入る場合下記を参考に文字数を減らしてください。 全員の集合写真は720字に相当、会場風景や大勢のスナップ写真は360字相当、数人のスナップ写真は120字相当で掲載します。 尚、同窓会ホームページよりひな型をダウンロードできますのでご利用下さい。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ

<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

投稿送付書

郵送で投稿の方は下記送付書に内容を記載し、同封をお願いします。

お名前（漢字）		フリガナ	所属支部	支部
卒業年数（どれか1つ）	（昭和・平成・西暦） _____ 年卒 / _____ 期卒			
住所（自宅・勤務先）	〒 _____			
電話番号（自宅・連絡先）	-	-	FAX 番号	-
投稿先 <input type="checkbox"/> に <input checked="" type="checkbox"/> 印チェック	同窓会会報	<input type="checkbox"/> カラーグラビア	<input type="checkbox"/> 追悼	<input type="checkbox"/> 支部のうごき
		<input type="checkbox"/> ふるさと自慢	<input type="checkbox"/> すいどうばし	<input type="checkbox"/> いなげ
		<input type="checkbox"/> クラス会だより	<input type="checkbox"/> OB, グループ・サークル	
貼付写真枚数	枚			
その他ご希望	（例 写真の順番・重要度など）			

いいんかいしょうかい

渉外委員会は、6名で構成されている小さな委員会ですが、私以外の委員の方々は、既に社会的に実績がある、経験豊かな委員で構成されております。渉外委員会は、同窓会として日本歯科医師会、各都道府県歯科医師会をはじめ、他の各歯科大学、国政選挙等への対外的な対応を担う重要な委員会です。

昨年12月には、衆議院の解散に伴う総選挙が挙行されましたが、それに対応すべく『東歯同窓国会議員・国政選挙区支部長を支える会』を立ち上げ、特定の政党に捉われず同窓の立候補者の応援を致しました。また現在、本年の参議院選挙に向け応援体制を整えつつあります。

今後、日本の社会情勢の大きな変化に伴い、同窓会としても対外的な対応が一

段と難しくなる事が予測されます。幸いにも本同窓会には矢崎秀昭会長を中心として、経験豊かで優秀な人材が揃っております。同窓会としては渉外委員会を中心に、皆の英知を絞りながら、歯科界の雄としての東京歯科大学発展のために微力ながらも努力していく所存でございますので、同窓各位の益々のご理解とご協力、また、さらなるご支援を宜しくお願い申し上げます。

渉外委員会委員長 岡野祐三



◆へんしゅうこうき

- ★ 今号から会報誌サイズがA4版となり、ほんの少しだけ大きくなりましたが皆さんお気づきになりましたか？表紙デザインも一新し、写真でトピックスをお伝えしようという試みなので毎号お楽しみにして下さい。
- ★ 文字の大きさも少し大きく、さらに行間も広くしましたのでゆったりと読み易くなったはずです。自分もゴルフで言えばシニアの年齢となり、目も衰えてきたので有りがたい限りです。
- ★ 自民党政権となり税制、社会保障等も大きく変化してきています。年金支給額は3年かけて減らす一方、70～74歳の医療窓口負担を特例の1割のまま据え置かれた。安堵する傍らで金価格の上昇が止まらず、金パラ合金の値段を見る度にタメ息を出しているのも自分1人ではないだろう。
- ★ 厚労省の2011年患者調査が公表され、1日当たりの歯科外来患者数が前回08年調査より5.3万人増加したことがわかった。高齢者、特に75歳以上の患者が増え続けているという報告から、自費の強化のための富裕高齢者やリピーターの獲得、そして患者に選ばれる歯科医院作りをしなければ患者数回復の流れに取り残されてしまうという。
(福井雅之 記)

広報部広報委員会

委員長 白田 準
副委員長 福井 雅之
山口 雅史
委員 古澤 成博
佐々木 葉子
志村 圭子
渡邊 宇一
島田 篤
西村 哲雄
宇佐美 貴弘
小貫 飛鳥
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成25年2月20日 印刷

発行人 小 池 修

平成25年2月25日 発行

編集人 白 田 準

東京歯科大学同窓会会報 第390号

東京歯科大学同窓会

同窓会ホームページアドレス

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18

<http://www.tdc-alumni.jp>

電話 (03) 5275-1761

FAX (03) 3264-4859

印刷所 一世印刷株式会社

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

電話 (03) 3952-5651 (代)